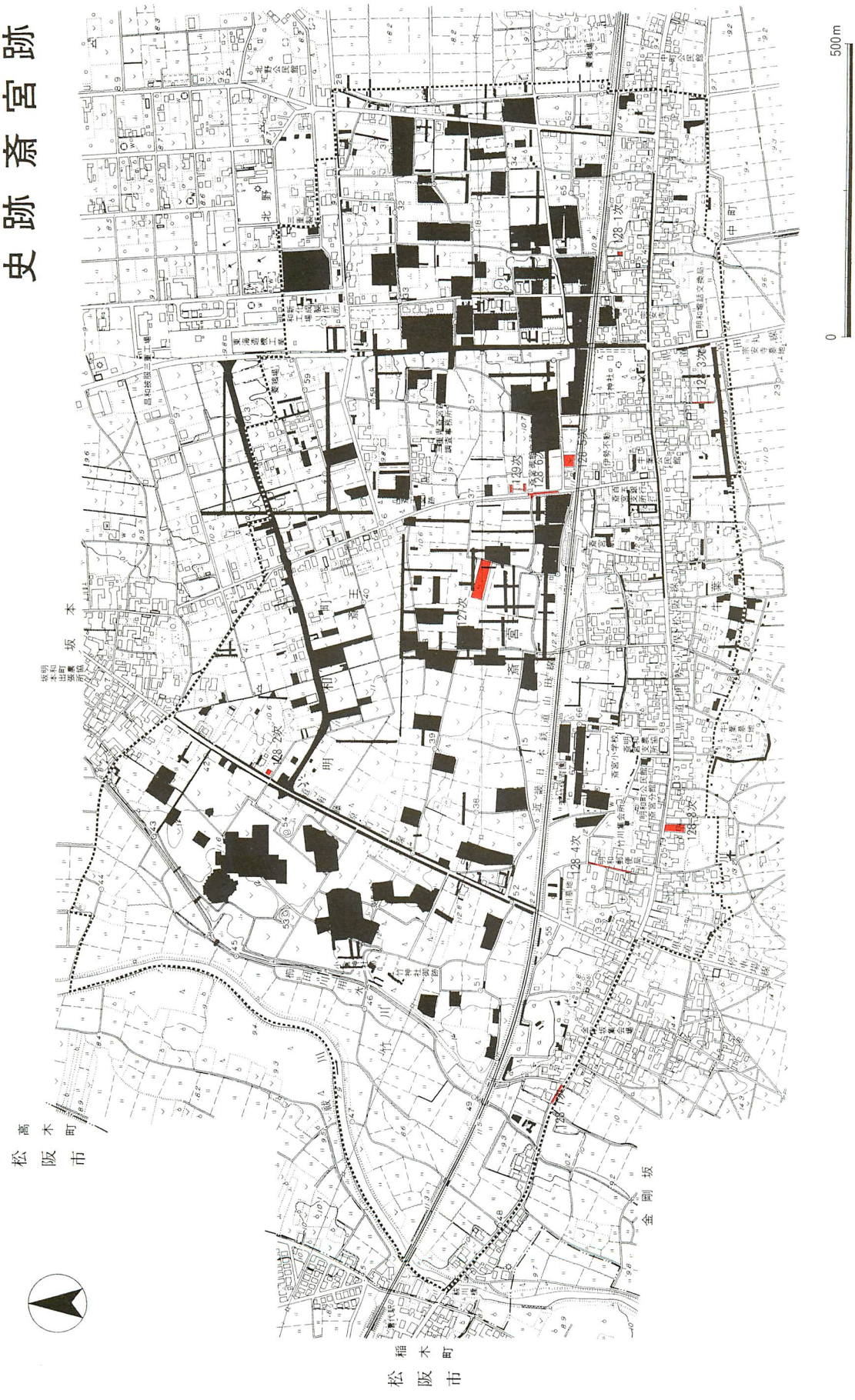
史跡 斎宮跡

平成11年度発掘調査概報

2001

斎宮歴史博物館

第 127 次調査航空写真



第１図　平成11年度発掘調査位置図（１：10,000）

はじめに

斎宮跡は、律令制下において伊勢神宮奉斎のため、天皇の代毎に派遣された斎王の宮殿及び斎宮寮の役所の跡であります。斎宮跡の保護顕彰は江戸時代に遡りますが、昭和45年の団地造成計画に端を発した発掘調査により、宮殿の解明と保存対策が問題となりました。地元との協議を経て、昭和54年３月に国の史跡の指定を受け、発掘調査をはじめ、土地の公有化、整備事業等の保護活用事業を国の補助金等を受け、三重県及び明和町で積極的に取り組んでいます。

発掘調査は、既に四半世紀を過ぎ、史跡の東部において藤原宮、平城宮、長岡宮、平安京の条坊制に通じる方格地割が確認されています。近年は、その中枢部の調査を精力的に実施しており、平成９年度の第119次調査及び平成10年度の第124次調査により、鍛冶山地区では、二重の掘立柱塀に囲まれ、大型の井戸を伴う大型掘立柱建物が規則的に配置されたことも明かになり、奈良時代後期から平安時代前期における斎王の御殿があった「内院」と判断することが可能になってきております。

史跡中央部の解明とともに、方格地割の北西隅部の状況も次第に明らかにされてきており、方格地割北西隅部の区画は４区画が大きく一つの区画として設定されおり、しかもその時期は、考古学的な所見にもとづく限り、平安時代後期を遡り得ません。このことは、方格地割の変遷についても、再検討を求める結果となり、今後の大きな課題の一つとなっています。

平成11年度は、この区画のほぼ中央部で、この区画を貫通する奈良時代の官道、及び官道停廃後の区画の性格を把握することを目的として、第127次調査を行いました。

調査の結果、奈良時代後期の側溝を確認するとともに、平安時代前期の側溝も確認され、官道として使われた時期が、中枢部における廃絶後も存続することも提起されました。

一方、整備・活用の面では、平成８年度から着手しました「遺構の活用・演出的整備ゾーン」計画地区において、文化庁の地方拠点史跡等総合整備事業に採択され、「斎宮跡歴史ロマン再生事業」として、事業を推進しております。

平成11年10月には、斎宮跡体験学習施設「いつきのみや歴史体験館」が竣工し、平安文化を基軸に据えた体験学習等に鋭意取り組んでおります。

この度刊行させていただく本概報は、平成11年度に実施いたしました斎宮跡の計画調査及び整備事業に伴う事前調査の成果の概要をまとめたものであり、これまでの膨大な調査成果の蓄積と相まって斎宮跡の実態解明にとって貴重な資料となるものと信じております。

斎宮跡の保存と調査研究・整備にあたりましては、文化庁をはじめ斎宮跡調査研究指導委員の先生方の御指導や地元明和町をはじめとする関係機関・各位の御協力の賜物と感謝申し上げます。

平成１３年３月

斎宮歴史博物館

館長　藤澤英三

例　　言

1　本書は、三重県が平成11年度に国庫補助金の交付を受けて実施した「史跡斎宮跡発掘調査」及び「地方拠点史跡等総合整備事業」に伴う事前調査の概要をまとめたものである。

2　明和町が、国庫補助金及び三重県補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は、別途明和町教育委員会が刊行している。

3　遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。

4　遺構の時期区分は、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（斎宮歴史博物館　2001）による。

5　遺構表示記号は次のとおりである。
ＳＢ；建物　ＳＡ；掘立柱塀・柵列　ＳＥ；井戸　ＳＫ；土坑　ＳＤ；溝　ＳＦ；道路
ＳＸ；その他

6　方格地割における各区画の名称は第11図に示した。

7　特に標示がない限り遺物実測図は実物の４分の１、遺物写真は約３分の１である。

8　用語は、「墓に関わる穴」には廣、「その他の穴」には坑を用いた。また、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「杯」・「椀」等を用いた。

9　斎宮跡の調査全般については、「斎宮跡調査研究指導委員」の諸先生方の指導を得た。

元奈良国立文化財研究所長	鈴　木　嘉　吉
京都橘女子大学教授	狩　野　　久
三重大学名誉教授	八　賀　　晋
岐阜聖徳学園大学教授	所　　京　子
名古屋短期大学教授	上　村　喜久子
奈良国立文化財研究所長	町　田　　章
千葉大学教授	北　原　理　雄
聖心女子大学助教授	佐々木　恵　介

10　現地での発掘調査及び本概報の編集・執筆は斎宮歴史博物館　調査研究グループ（旧調査研究担当）の駒田利治、泉　雄二、上村安生、大川勝弘、西村美幸があたり、八木光代、山口香代がこれを補助した。遺物整理には島村紀久子、西村秋子、杉原泰子が担当したほか、大西瞳（花園大学学生）の参加を得た。第127次調査の遺物実測は、泉、大川、西村、山口があたり、遺物トレースを山口、遺物観察表を八木が担当した。

目　　次

Ⅰ　調査の経過と概要 …… 1
Ⅱ　第127次調査 …… 3
Ⅲ　第129次調査 …… 19
発掘調査報告抄録 …… 30

表・挿図目次

〔表〕 1　平成11年度発掘調査一覧表 …… 2
2　第127次調査時期別遺構分類表 …… 4
3　遺物観察表 …… 21
4　斎宮跡発掘調査次数一覧表 …… 24

〔図〕 1　平成11年度発掘調査位置図（1：10,000） …… i
2　第127次調査　調査区位置図（1：2,000） …… 3
3　〃　遺構実測図（1：200） …… 5
4　〃　遺物実測図（1） …… 12
5　〃　遺物実測図（2） …… 13
6　〃　遺物実測図（3） …… 15
7　斎宮跡史跡内の伊勢道調査地点（1：10,000） …… 18
8　第129次調査　調査区位置図（1：2,000） …… 19
9　〃　遺構実測図（1：200） …… 20
10　斎宮跡地区表示 …… 28
11　斎宮跡方格地割区画名称 …… 29

写　真　図　版

巻首図版　第127次調査　航空写真
ＰＬ１　上：第 127次調査区全景（上空から）　下：調査区全景（西から）
ＰＬ２　上：ＳＤ5254,8166,5256,5260（東から）　下：ＳＤ8128,8129,8130,8132（西から）
ＰＬ３　上：ＳＢ7715　下：ＳＫ8134 土器出土状況
ＰＬ４　上：第129次調査調査区全景（南から）　下：北調査区全景（東から）
ＰＬ５　第127次調査遺物写真（１）
ＰＬ６　第127次調査遺物写真（２）

Ⅰ　調査の経過と概要

経　過　古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に始まる斎宮跡の発掘調査は、文化庁の補助事業として、昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年３月27日に国の史跡に指定され、指定以来史跡解明の計画調査を継続して実施している。

これまでの発掘調査成果の蓄積から平安時代初期を中心に展開を想定している方格地割において、方形区画内をめぐる掘立柱塀や大型掘立柱建物の規則的な配置、祭祀を想起させる土坑の存在等から、当該期斎宮寮の中枢部の可能性が強い西加座・牛葉・鍛冶山地区における構造解明に重点をおいて調査を進めている。

また、史跡指定以降、管理団体である明和町が文化庁及び県の補助を得て実施している史跡の買い上げの進捗と相まって、公有地の管理と史跡の活用が課題となり、平成５年度に『史跡斎宮跡整備基本構想検討調査報告書』刊行、平成８年３月に『史跡斎宮跡整備基本構想』策定を行うとともに、平成７年度には、文化庁等の指導を得ながら『史跡斎宮跡「遺構の活用・演出的整備ゾーン」整備基本計画』を公表した。

整備計画地は斎宮駅北側の方格地割北西隅部に想定される地区であり、公有化が最も進捗した地区であるとともに、斎宮跡及び斎宮歴史博物館への窓口の一つであり、また、近代の瓦粘土採掘によって遺構の保存状況が必ずしも良くない地区であることにより『史跡斎宮跡　整備基本構想』の「遺構の活用・演出的整備ゾーン」として、137.1haの広大な広がりをもつ斎宮跡の理解を体験的に深めるため1/10模型を核とした体験学習を実施できる整備ゾーンとして位置づけた。

第127次調査　この上園・宮ノ前地区でのこれまでの調査を補完し、施設の建設予定地となる地区を第127次調査として実施した。調査の結果、想定していた奈良時代の溝の北側に、周辺地の調査結果から推定して道路状遺構として判断できる遺構を確認した。

また、平安時代前期においても、道路状遺構を推定させる溝を確認しており、平安時代後期でも幅約５ｍの両側側溝を有する道路状遺構を確認している。

さらに、出土遺物から時期は特定できなかったが、幅９ｍの間隔で２条の溝が確認され、これも道路状遺構と考えられる。

従って、この区画内においては、奈良時代から平安後期まで、官道として用いられた伊勢道が敷設されていたこととなり、方格地割との関係を再検討を要する必要が生じた。

現地公開　調査期間中の６月６日には、第17回「斎王まつり」が開催され、協賛事業として発掘調査中の現地を一般に公開し、県内外303名の参加を得た。

第１回調査研究指導委員会議　調査が終了した７月22日には、斎宮跡調査研究指導委員会議を開催し、第127次の調査内容及び斎宮跡歴史ロマン再生事業で実施している体験学習施設建設等にかかる指導をうけるとともに、今後の整備事業について助言を得た。

現地説明会　斎宮跡調査研究指導委員の先生方の指導を得、調査成果が整理できた10月３日には、現地説明会を開催し、遺構の詳細と史跡の重要性を164名の参加者の方に理解いただいた。

第129次調査　第127次調査区のある区画やこの東に位置する御館区画の南側は、わずかに高くなっ

ており、第93次、第95次、第99次、第118次調査等では、奈良時代前期～平安時代後期までの建物遺構が確認されている。第129次調査は、御館区画の南西隅部の一段高い部分でトレンチ調査を行った。今回の調査では、大半が近代の瓦粘土採掘のため遺構面が撹乱されており、遺構は確認できなかった。しかし、遺物は平安時代初期から後期までのものが少量出土し、当該区画が平安時代には機能していたことを示している。

第２回調査研究指導委員会議　斎宮跡歴史ロマン再生事業の中核施設である体験学習施設「いつきのみや歴史体験館」は、斎宮歴史博物館のリニュアルオープンとともに、10月２日に開館した。開館式典への出席も兼ねて、10月１日及び２日の両日にわたって開催した。

委員会議では、1/10建物模型の材質の決定、調査で確認された建物と推定建物の区別の有無並びにその方法について指導いただいた。

緊急発掘調査　整備事業を進めながら、史跡の現状変更に伴う緊急発掘調査を明和町教育委員会斎宮跡課と調査日程を調整しながらすすめた。

従来、側溝の改修に対しては、周辺遺構と現状変更行為を検討して、工事立会いとして取扱ってきた事例もあったが、今年度から溝改修に伴う現状変更行為については、すべて事前の発掘調査を実施することとした。

また、個人等の浄化槽に伴う現状変更については、事前の発掘調査を行い、その結果を調査報告書に掲載することとした。

第128-1次調査は、近鉄線以南で調査例が少ない地区での貴重な調査であり、斎宮跡内院地区内における南北方向の外郭掘立柱塀のうち、後出する掘立柱塀の延長部分の32間から34間の２間を確認し、更に南に延びることが判明した。また、先行する掘立柱塀は、今回の調査区でも認められず、近鉄線以北の第119次調査区内で途切れる間仕切り的なものと考えられる。

第128-5次調査も、方格地割の区画施設想定地区での調査であり、奈良時代の幅13.3ｍの区画道路と南北両側溝を想定どおりに確認し、更に平安時代の幅約８ｍの道路と南北両側溝を確認した。

その他、史跡現状変更に伴い管理団体である地元明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当している事前の緊急発掘調査は、本年度は８件実施し、工事立会い調査を29件実施した。　（駒田　利治）

調査次数	地区名	面積	調査期間	地籍地番	所有者	備　考	区分
127	6ADK-HI	1,330	H11.5.10～H11.10.26	斎宮字上園311	個人	計画調査	1
129	6AEU	166	H11.8. 2～H11. 8.20	斎宮字御館2969-1他	明和町	計画調査	1
調査面積	合計	1,496					

調査次数	地区名	面積	調査期間	地籍地番	所有者	備　考	区分
128-1	6ADP	32	H11.6. 8～H11.6.18	斎宮字鍛冶山2737-1	個人	農業用倉庫新築	3
128-2	6ACA-W	144	H12.1.17～H12.1.21	斎宮字古郷里3270-4	個人	個人住宅の新築	3
128-3	6AEW-ACM	41	H12.1.18～H12.1. 1	斎宮字鈴池地内	明和町	側溝の新築	3
128-4	6ACK	80	H12.2. 1～H12.2.24	竹川字東裏地内	明和町	道路改修工事	3
128-5	6AEP	452	H12.1.24～H12.2. 9	斎宮字御館2975-1他	明和町	資材置場の整地	3
128-6	6ADN	27	H11.8. 2～H11.8. 3	斎宮字内山地内	明和町	水道管埋設	1
128-7	6AAQ	20	H12.3. 9	竹川字花園地内	明和町	即設側溝の改修	3
128-8	6ACA	20	H11.10.14	竹川字南裏250	個人	個人住宅の増築	3
調査面積	合計	816					

第１表　平成11年度発掘調査一覧表

Ⅱ　第127次調査

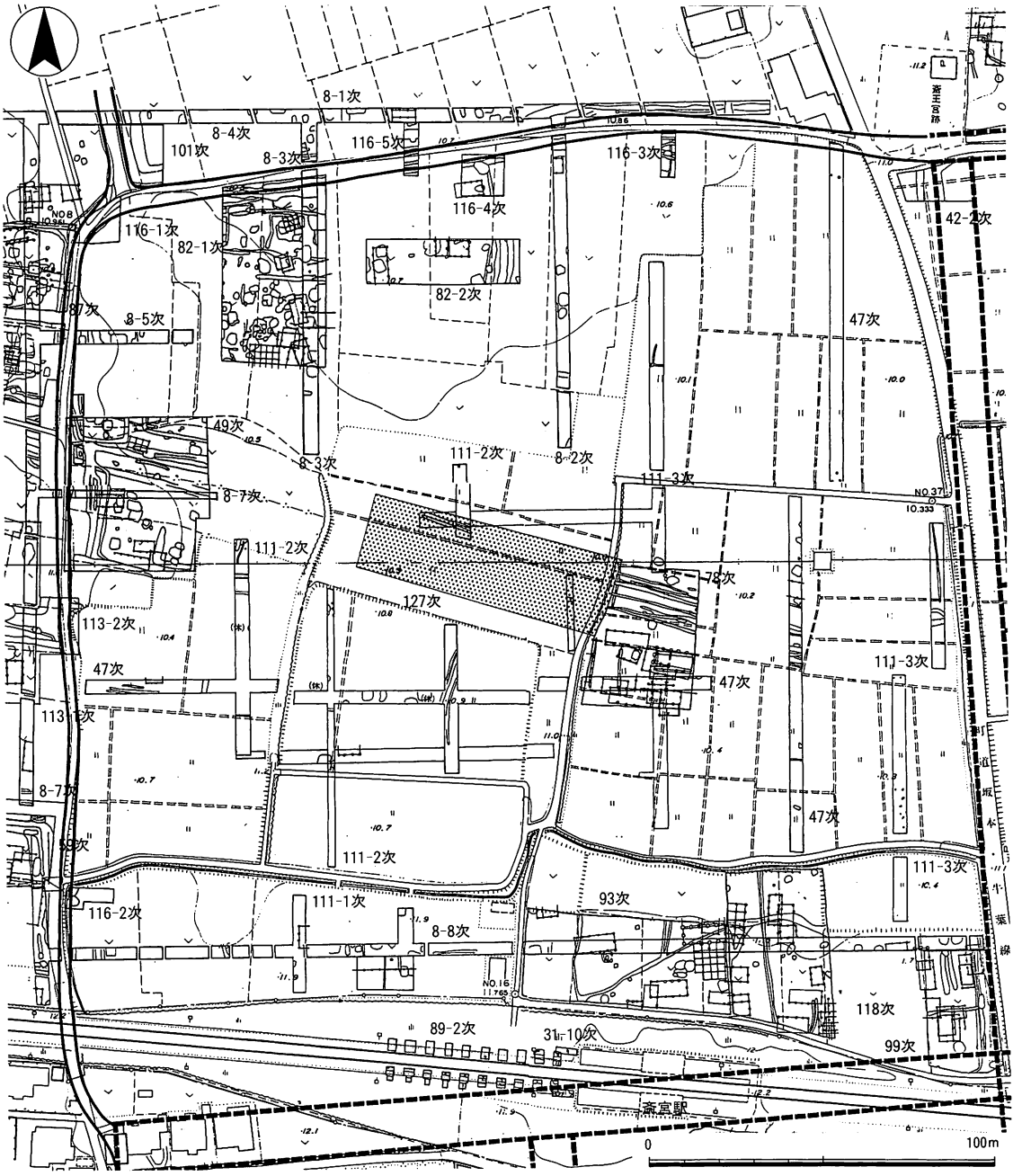
（６ＡＤＫ-ＨＩ　上園地区）

１　はじめに

平成11年度の第１回目の計画調査は、平成９年度から開始された地方拠点史跡等総合整備事業地域内において、芝生広場の南側で実施した。

調査の目的

斎宮跡では、律令国家体制の変革期にあたる光仁・桓武朝における長岡京・平安京遷都と呼応して、史跡東部に方格地割の造営が行われた。この方格地割は、一辺約120ｍを基準とした方形区画で構成され、東西７列、南北４列が確認されている。方格地割の各区画は、両側の側溝と道路で区画され、地割の基準軸は北から西へ約４°振って



第２図　第127次調査　調査区位置図（1：2,000）

いる。

今回の整備対象地区である上園・宮ノ前地区は、方格地割の北西隅部に位置し、この地区では、４区画が想定されたが、平成５年度の第111次調査、平成８年度の第115次調査によって、この地区では、一辺約120mを基準とする方形区画に分割する区画道路および両側溝が確認されておらず、この部分は４区画分の広さを持った区画であることが判明している。

また、当該地区では、昭和58年度の第49次調査、昭和63年度の第78次調査等で、史跡西部から東部の方格地割内まで直線に延びる古代の官道である「伊勢道」が敷設されていたことが確認され、方格地割東部では方格地割造営時に官道が付けかえられたことも明らかになっている。しかし、当該地区では、方格地割の区画施設が平安時代後期になって造られていることもあり、また、平成元年度の第82次調査や区画南で地形的に一段高い内山地区における平成３年度の第93次調査、平成４年度の第95次調査、平成５年度の第99次調査、平成９年度の第118次調査で奈良時代前期以降の掘立柱建物も確認されており、方格地割の造営時における当該地区の位置付けについても課題が残されている。

今回の第127次調査は、こうした課題を踏まえ、この区画内における官道「伊勢道」の確認と、その機能の存続時期を解明することを目的として、現況水田地区に調査区を設定して行った。

調査期間

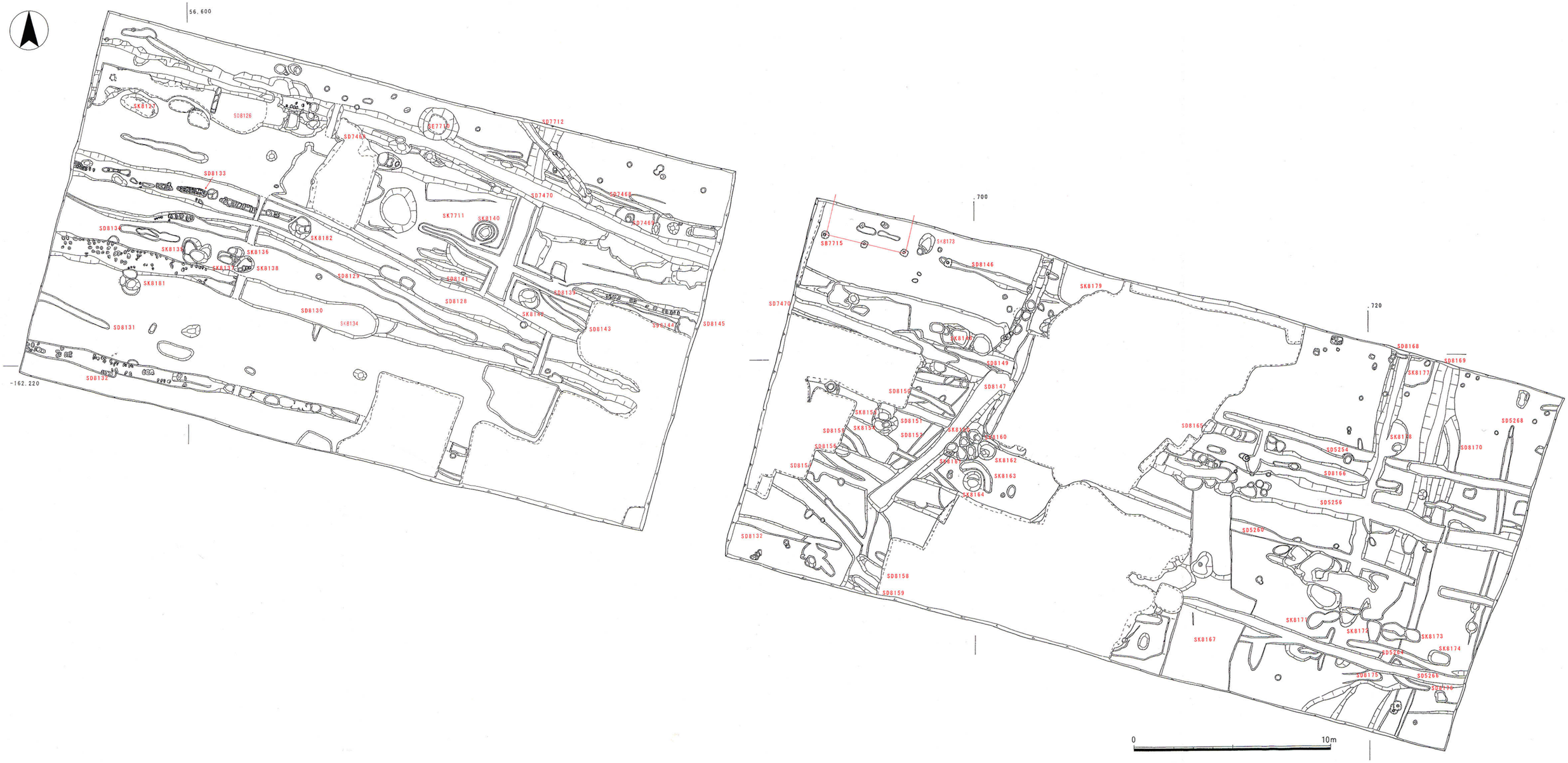
調査は、平成11年５月10日から同年10月26日まで実施した。調査期間中の６月６日（日）に「斎王まつり」に協賛して調査現場の一般公開を行い、303名の見学者があった。また、現地調査が終了した10月３日（日）には、調査の結果を広く県内外に発表する現地説明会を開催し、164名の参加者を得た。

現　況

調査地区の現況は、標高10.1m～10.2mで、北西から東に向かって低くなっている。また、調査区周辺は、旧状図からも浅い谷状地形をなしており、降水時の雨水の流路となっている。

		遺構の種別			
		ＳＢ	ＳＥ	ＳＫ	ＳＤ
斎宮第Ⅰ期	第３・４段階			8134 8173	5266 8126 8129 8130 8149 8157 8165
斎宮第Ⅱ期	第２・３段階			8137 8160 8161 8163 8174 8179 8180	5254 5260 5264 8144 8150 8151 8156
	第４段階			8142	8141 8166
斎宮第Ⅲ期	第１・２段階	7715		7711 8127 8135 8136 8138 8140 8160	5256 7469 7470 7712 8128 8131 8139 8146 8152 8158 8159
鎌倉			7710	8162 8164 8181	7468 8168 8169 8170 8147
不明				8148 8153 8154 8172 8177 8178 8182	8132 8133 8143 8145 8155 8157 8167 8175 8176 8181

第２表　第127次調査　時期別遺構分類表



第３図　第127次調査　遺構実測図（1：200）

2　遺　構

調査の結果、奈良時代から近世までの掘立柱建物１棟、井戸１基、土坑27基、溝40条などを確認した。時期は、第２表に示したように平安時代の遺構が主体をしめる。

（１）斎宮第Ⅰ期第３・第４段階

この時期の遺構として、土坑２基、溝７条等を確認している。

SK8134　西調査区の中央部でSD8130と重複して確認した。調査当初は、土坑埋土が溝埋土ときわめて酷似しており、溝の一部として調査を進めた。しかし、平面的には溝肩の形状とは異なり、また遺構の底も溝より深くなることが明らかになった。かつ、土師器杯Ａ（1）１点、杯Ｇ（2～5）4点、皿Ａ（6・7）２点、鍋Ａ（8）１点、小型甕Ａ（9～14）６点、甕Ｂ（15～21）７点以上が折り重なるように出土していることから、SD8130埋没直後に設けられた土坑と判断できた。また、これらの一括土器類は斎宮第Ⅰ期第３段階のものと判断される。

SK8173　東調査区北西部付近で検出した。長径約1.0m、短経約0.7m、深さ0.5mの楕円形の土坑である。土師器蓋（22）が出土した。

SD5266　東調査区南部で検出した。幅0.5～0.7m、深さは約0.1m、溝の方向は約Ｅ16°Ｓである。第78次調査で確認された溝の西側延長部分である。

SD8157　東調査区西側で検出した幅0.5m深さ0.1mの溝である。途中、近世以降の粘土採掘土坑に切られ確証はできないがSD5266の続きと考えられる。

SD8130　西調査区南部で検出した。幅0.9～1.1m、深さは約0.2～0.3m、溝の方向は約Ｅ16°Ｓである。途中でSK8134と重複しているが、新旧関係はSK8134よりも古い。また、近代以降の粘土採掘土坑が途中にあり、また方位も若干変動している点からも確証はできないが、SD5266・8157の続きである可能性もある。西端付近では、径20㎝ほどの不正円形の小穴が多数見られる。

SD8165
8149　東調査区中央付近で検出した。幅0.6m、深さは約0.2mだが、ピット状に深い部分がある。粘土採掘土坑を隔てて西側にはSD8149があり、位置関係から同一の溝と考えられる。総延長約16.5mを確認した。SD8149からは、土師器鍋Ｂ（25）等が出土した。

SD8129　西調査区の中央部で検出した。溝は緩く蛇行しており、西調査区東でSD8130と重複する。検出できた幅・深さは、調査区西端では幅約0.2m、深さ約0.06mであるが、SD8130と重複する付近では幅約1.1m、深さ約0.11mとやや深くなる。土師器杯Ａ（23）須恵器甕（24）等が出土した。

SD8126　西調査区の北西隅で検出した。斎宮第Ⅲ期のSD7470に壊される。湧水のため一部トレンチ状に調査した以外は調査を断念した。深さは約0.3mである。土師器鍋Ａ（26）等が出土した。

（２）斎宮第Ⅱ期第２・第3段階

この時期の遺構には、土坑７基、溝７条等が確認されている。

SK8174　東調査区南東部で、SD5266の北で検出した東西幅約1.1m、南北幅約0.6m、深さ約0.1mの土坑で、同時代のものと考えられるSD5264と重複している。遺物は、緑釉陶器片が出土した。

SK8163　東調査区中央部付近で検出した。東西幅約2.1m、南北幅約0.6m、深さ約0.05mの半円形で、鎌倉時代のSK8164に南側を壊されている。土師器杯Ａ（29）等が出土した。

SK8179　東調査区中央部北端で検出した。北側は調査区外に伸び、東端及び東南隅は近代以降の粘土採掘土坑に壊されている。検出した東西幅は約４ｍ、南北幅は約３ｍ、深さ約0.1ｍである。

SK8137　西調査区中央西寄りで検出した。東西幅約0.95m、検出した南北幅約0.55m、深さ約0.3ｍである。斎宮第Ⅲ期の土坑SK8136・8138に先行する。

SK8160
8161・8180　斎宮第Ⅲ期のSD8147及び鎌倉時代のＳＫ8162に壊される。遺構確認面では１基の土坑とみられたが、調査の結果では土坑底部は凹凸があり、SK8161・8180等の数基の土坑があまり時間差をおかず、掘られたと判断された。

SD5260　東調査区中央付近で検出した。幅約0.5m、深さは約0.05～0.1m、溝方位は約Ｅ19°Ｓである。途中、粘土採掘土坑に壊されるが、規模や方向からSD8151に続くと考えられる。土師器杯Ａ（28）等が出土した。

SD8151　SD5260と粘土採掘を隔てた西側で検出し、SD5260の延長と考えられる。土師器杯Ａ（32）等が出土している。

SD8150　SD8151の約0.8m北に位置する。これより東では、この溝の続きは確認されていない。

SD5264　東調査区東部でSK8174、SD5266と重複し、SD5266よりも新しい溝である。幅約0.4ｍ、深さ約0.05ｍと残りが悪い。第78次調査で確認された溝の西側延長部分である。

SD8156　東調査区南西部で検出した。幅0.5～1.0m、深さ約0.4ｍの溝である。重複関係からSD8155より新しく、SD8147より古い。完形の土師器杯Ａ（27）が出土している。

SD8144　西調査区の東端付近で検出した。南半分を粘土採掘坑に、東を時期不明の土坑に壊されているが、方向性からSD5260・SD8151の延長部にあたる可能性が強い。

SD5254　東調査区東部で検出した。第78次調査区から続くが、東調査区の中央にある粘土採掘坑の直前で止まっている。この粘土採掘坑の西側では溝の延長部分の確認はできなかった。今回の調査では、時期の特定できる遺物は出土していないが、第78次調査の結果からこの時期のものとする。

（３）斎宮第Ⅱ期第４段階

この時期の遺構には、土坑１基、溝２条等が確認されている。

SK8142　西調査区の中央東よりの位置、SK1711の下層で検出した。直径約1.0m、深さ約0.2mで、北側は更に0.1ｍほど深くなる。

SD8141　西調査区中央で検出した調査区方向に沿う溝である。斎宮第Ⅲ期のSK7711の下層で確認され、同期のSD8128に先行する。

SD8166　東調査区中央付近で検出した。幅0.6～0.9m、深さ約0.15ｍである。西端は、粘土採掘坑の東で止まっており、東に約7.5ｍほど続き、更に東へは断続的に認められる。溝の東側延長として、第78次調査区のSD5255と適当な位置関係にあるが、平面の形状や幅、SD5255の出土遺物が鎌倉時代であることなどから同一の溝とは考えられない。

（４）斎宮第Ⅲ期

この時期の遺構には、掘立柱建物１棟、土坑７基、溝11条等が確認されている。

SB7715　東調査区北西隅で検出した。第115-1次調査で東西２間分の柱穴が確認されていたが、今調査で、この柱列の南で南に２間分の柱穴を確認し、桁行２間、梁間２間の総柱建物であることがわかった。

ＳＫ7711　西調査区の中央北部で検出した。東西約9.5m以上、南北約5m以上である。SK8140、

SD7712、SD8139よりも古い。ロクロ土師器（46～48）、緑彩陶器段皿（45）が出土している。

SK8140　西調査区中央北部で検出した。SK1711と重複関係にあり、SK1711よりも新しい。長径約0.7m、短径約0.6m、深さ約0.14mの円形土坑である。

SK8127　西調査区北西隅部で検出した。SD8126と重複関係にあり、SD8126より新しい。長径約2.5m、短径約1.2m、深さ約0.5mの楕円形土坑である。

SK8160　斎宮第Ⅲ期のSD8147及び鎌倉時代のSK8162に壊される。遺構確認面では１基の土坑でみられたが、調査の結果では土坑底部は凹凸があり、数基の土坑があまり時間差をおかず、造られたと判断された。

SK8135　西調査区西中央で検出した１m前後の楕円形の土坑である。SK8136からは、土師器杯A（33）が出土した。

8136・8138

SD8158　東調査区の南西部で検出した。東を粘土採掘坑に壊され、長さ約1.5m、幅約0.3m、深さ約0.1mである。

SD8159　SD8158の南で検出され、SD8158とほぼ同規模で平行している。土師器小皿（35）、灰釉陶器椀（34）が出土している。

SD8128　西調査区の中央部で、調査区の方向に沿い、西から東までわずかに北側に弯曲して延び、東端が粘土採掘坑により破壊される。幅0.8～1.4m、深さ約0.25mの規模である。

SD5256　東調査区の中央部東半で検出され、調査区の方向に沿い、中央部の粘土採掘坑まで認められる。第78次調査区から続く溝であるが、西調査区のSD8128よりはやや北に位置しており、直接的には繋がらない可能性が強い。ロクロ土師器(49)、灰釉陶器(50)、山茶椀（51）が出土している。

SD7469　西調査区東端で、第111－２次に検出した同遺構の続きを検出した。

SD7470　西調査区北部で、調査区に沿うような形で検出した。幅0.8～1.0m、深さ約0.5mの溝で、東調査区の西から37mの所で終わっている。土師器杯G（37）ロクロ土師器小皿（38・39）山茶椀（41～43）等が出土している。

SD7712　SD7470と直交する形で第111－２次調査で検出された同遺構を検出した。ほぼ同時期と思われるSD8139とも直交している。同時期の溝8128に切られ、それ以南には続かない。

SD8139　SD7712と直交する溝で、SD7712との前後関係は不明である。長さは9.5m確定でき東端は近代の粘土採集土坑に壊され、東調査区の続きは確認できない。

SD8131　西調査区南西で検出した幅約0.3m、深さ約0.05mの深さである。長さは４m確定でき、調査区外へ続く。

SD8146　東調査区北西で検出した幅0.3～0.6m、深さ約0.05の溝である。長さは6.5mで、東を粘土採集土坑に壊される。

SD8147　東調査区中央付近で検出した。幅約0.4m、深さ約0.3mの溝で、北端は調査区に直交し、途中西にカーブする。北端付近には溝底には径0.5mほどのピットが多数掘削されている。土師器小皿（55）等が出土した。この他、奈良時代と思われる土器も出土し、溝底のピットの中には奈良時代に遡るものも存在した可能性が高い。

SD8152　SD8147とほぼ平行する溝である。

（５）鎌倉時代

この時期の遺構には、井戸1基、土坑３基、溝５条が確認されている。

SE7710　第115-1次調査区の北西隅部で平面の1/4ほどを確認した井戸である。東西方向で長径約2.1m、南北方向で短径1.7m、掘形の深さ約0.5mで傾斜を変え、一辺約1mの略方形となる。深さ約1.5mまで調査を進めたが、崩壊の危険性があるため、井戸底までの調査は断念した。山茶椀（53・54）が出土した。

SK8162　東調査区中央西よりで検出した土坑であり、SK8162は、径約0.9m、深さ約0.5m、

8164　SK8164は、径約1m、深さ約1mである。SK8164からは山茶椀(52)が出土している。

SD8168　東調査区の東部で確認された南北溝群である。ともに長さ約13mほどで南端は途切れ

8169・8170　る。SD8168は、幅約0.8m、深さ約0.1mで溝の方向は北から東へ約15°振っている。SD8169は、幅1～1.2mで、深さ約0.15mで、溝の方向はSD8168と同方向である。SD8170は、SD8169から分流したものであり、幅約0.8m、深さ約0.05mと浅い。

SD7468　第111－２次、第115－１次で確認された溝である。

SK8181　西調査区SD8130の南でSD8130を切る形で検出した。径約１m、底は数個のピットが集まった形になっている。土師器小皿（56）が出土した。

（６）その他

SD8132　SD8132は、西調査区南端付近で検出した。幅約0.85m、深さは約0.2～0.3m、溝方

8133・8145　位は約Ｅ14°Ｓである。埋土は、黒褐色の“黒ボク”であり、溝の底には溝と直角方向に多数の小穴がみられた。この検出状況と酷使する遺構に、斎宮第Ⅲ期に埋没したSD8128の下層でSD8133が検出され延長にはSD8145が同形状で撹乱されている。両者ともに遺物をほとんど含まないため、時期が決定し難い。埋土及び遺構の形状から両者は、斎宮第Ⅰ期に遡る可能性も示している。また、溝芯々で約９mの間隔を保ち、直線的に平行しており、道路の両側溝である可能性が高い。　（西村　美幸）

３　遺　物

第127次調査で出土した遺物は、すべてが土器類であり整理箱で44箱である。遺物の時期は、奈良時代後期から鎌倉時代に及ぶ。以下に一括遺物など主要な遺物を中心に報告する。

なお、本年平成12年度に『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』を刊行しており、斎宮跡の土器編年は、同報告による編年（2000編年）による。

（１）斎宮第Ⅰ期

SK8173　ピット状の遺構から出土した土師器の蓋（22）である、口径14.4cm、器高4.2cmで、丸みをもつ天井部に擬宝珠の比較的古式のつまみがつく。天井部外面は、ヘラケズリの後粗くヘラミガキする。単独の出土であるが、斎宮第Ⅰ期前半の第１段階～第２段階の時期であろう。

SK8134　土師器杯Ａ、杯Ｇ、皿Ａ、鍋Ａ、甕Ａ、甕Ｃが一括出土し、甕の個体数が多い。

杯Ａ（１）は、推定口径15.2cm、器高3.1cmで、径高指数20.4である。口縁部は、わずかに外反して外方に伸び、端部は丸くおさめられる。口縁部は、ヨコナデ調整し、底部外面をヘラケズリで調整する。

杯Ｇ（2～5）は、口径13.5～13.7cm、器高3.5～4.4cmで（2・5）のように径高指数が

27.7～32.6と大きいもの、(3・4) のように25.9～26.5cmと低いものがある。杯Gは、胎土に砂粒を比較的多く含み、明黄褐色を呈する。また、粘土紐の接合痕もよく残すことが多い。調整は、外面を指オサエ、ナデで調整し、内面をナデ調整する。

皿A (6・7) は、(6) が推定口径15.8cm、器高2.5cm、(7) が口径16.4cm、器高2.0cmである。底部外面をヘラケズリし、(6) ではその範囲が口縁直下まで及び、(7) ではラケズリの後ヘラミガキ調整し、内面には螺旋暗文を施す。

鍋B (8)は、口径18.4cm、器高8.5cmで、口縁部は、く字状に外反して外方に開く。口縁部をヨコナデし、体部外面をタテハケ調整、内面を横方向にナデ調整、底部内外面ともにヘラケズリする。

甕A (9～14)は、全体に小型甕に属するものであるが、更に法量から推定口径15.2cm、器高11.3cmのもの (9) と口径16.5～18.0cm、器高12.5～15.4cmのもの (10～14) に区分される。形態からは、底部が丸みをもつ(11・12)と平底に近い形状をなす(9・10・13・14) ものがある。調整は、体部外面を縦方向にハケメ調整、内面は上部を横方向にハケメ調整、下部をヘラケズリするのが基本であるが、ヘラケズリの範囲は底部にとどまるもの (9) から口縁部近くに及ぶもの (11～12) まである。また、内面をすべてヘラケズリするもの (14) もある。

甕C (15～21) は、長胴甕であり、く字状に外反する口縁部に胴径をほぼ同じくする胴部が長くつけられ、底部は丸く仕上げられる。口径22.0～25.5cm、器高は38cm前後となる。調整は、体部外面を縦方向にハケメ調整、内面上部を横方向にハケメ調整、下部を縦方向に底部からヘラケズリする。ヘラケズリの範囲は、下半にとどまるもの (17・18・20)、上部にまで及ぶもの (15・16・19) があり、上部のヨコハケもわずかに施されるだけで、成形時の指による圧痕がのこるもの (21) もある。

SD8129　土師器杯A (23) と須恵器甕 (24) が出土している。杯A (23) は、口径15.6cm、器高3.2cmで、口縁部と底部の境は丸みをもち、やや新しい要素をもっている。底部外面から口縁部中ほどまでヘラケズリし、第3段階でも新しい時期に属する。甕 (24) は、体部以下の出土であり、注口部及び高台の形態から、斎宮第Ⅰ期第２段階と考えられる。

SD8149　土師器鍋B (25)は、口径37.8cmで把手以下を欠く。口縁部は、屈曲して外方に開き、端部は外方に面をつくる。内外面のハケメ調整は丁寧であり、時期はやや遡る可能性もある。

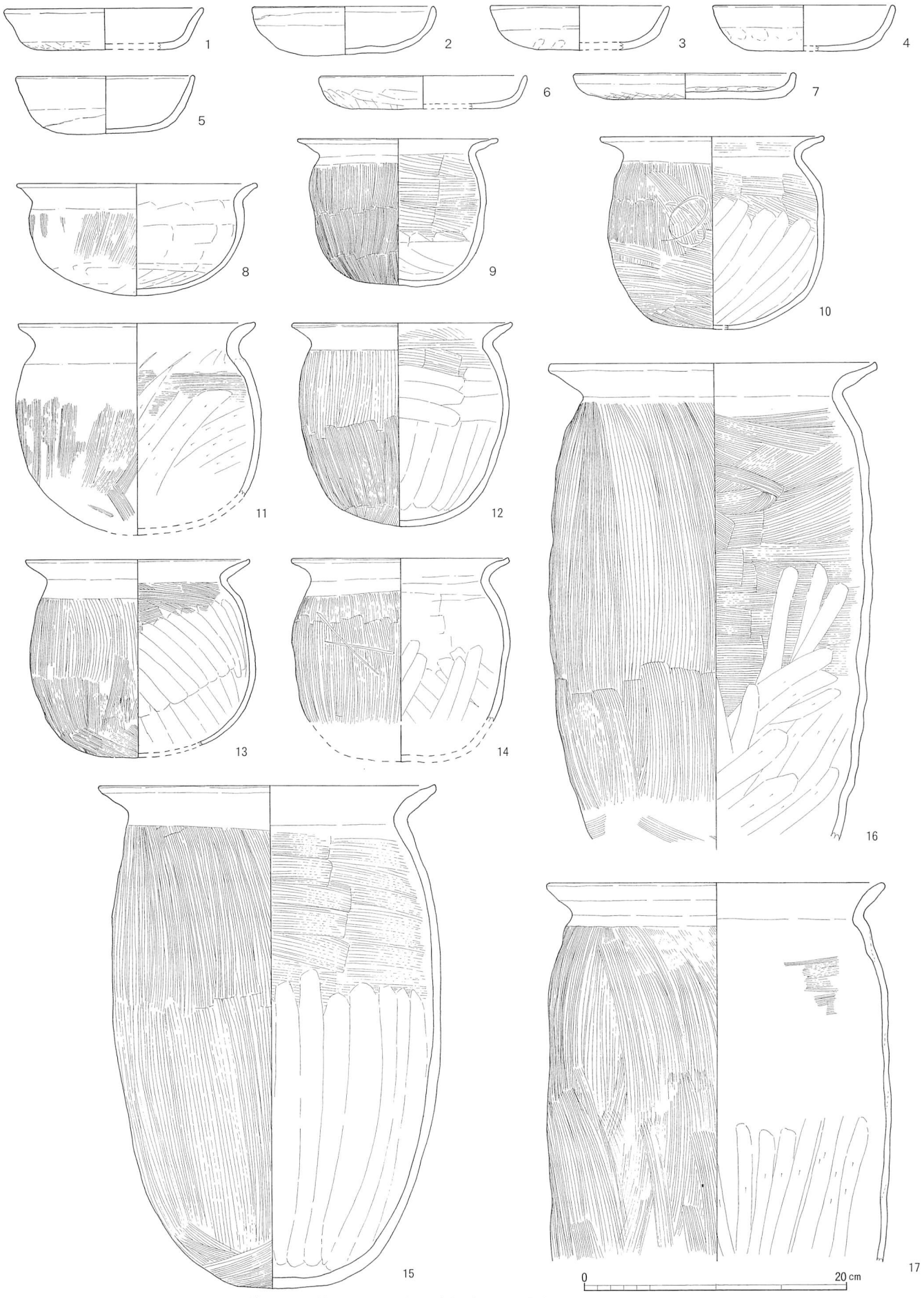
SD8126　土師器鍋A (26)は、口径45.7cm、推定器高23cmで、やや深目の器形となる。口縁部は、斜め外方に開き、端部は角張る。底部は、平底に近い形状となる。

（２）斎宮第Ⅱ期

SD8156　土師器杯A (27) は、口径13.8cm、器高3.0cmでわずかに外弯して外方に開く。底部外面にはヘラ記号が施される。底部外面をヘラケズリで調整する。器壁は、薄くなってきている。第１段階の土器と考えられる。

SD5260　土師器杯A (28) は、口径13.8cm、器高2.9cmで、器壁は薄く、口縁部は大きく外弯して開き、端部が摘み上げられる。外面調整は、ヨコナデで仕上げるｅ手法である。

SK8163　土師器杯 (29) は、口径13.9cm、器高3.1cmで、緩く外弯して開く口縁部は、端部で摘み上げられる。外面調整は、ヨコナデ調整のｅ手法である。SD5260・SK8163の土器

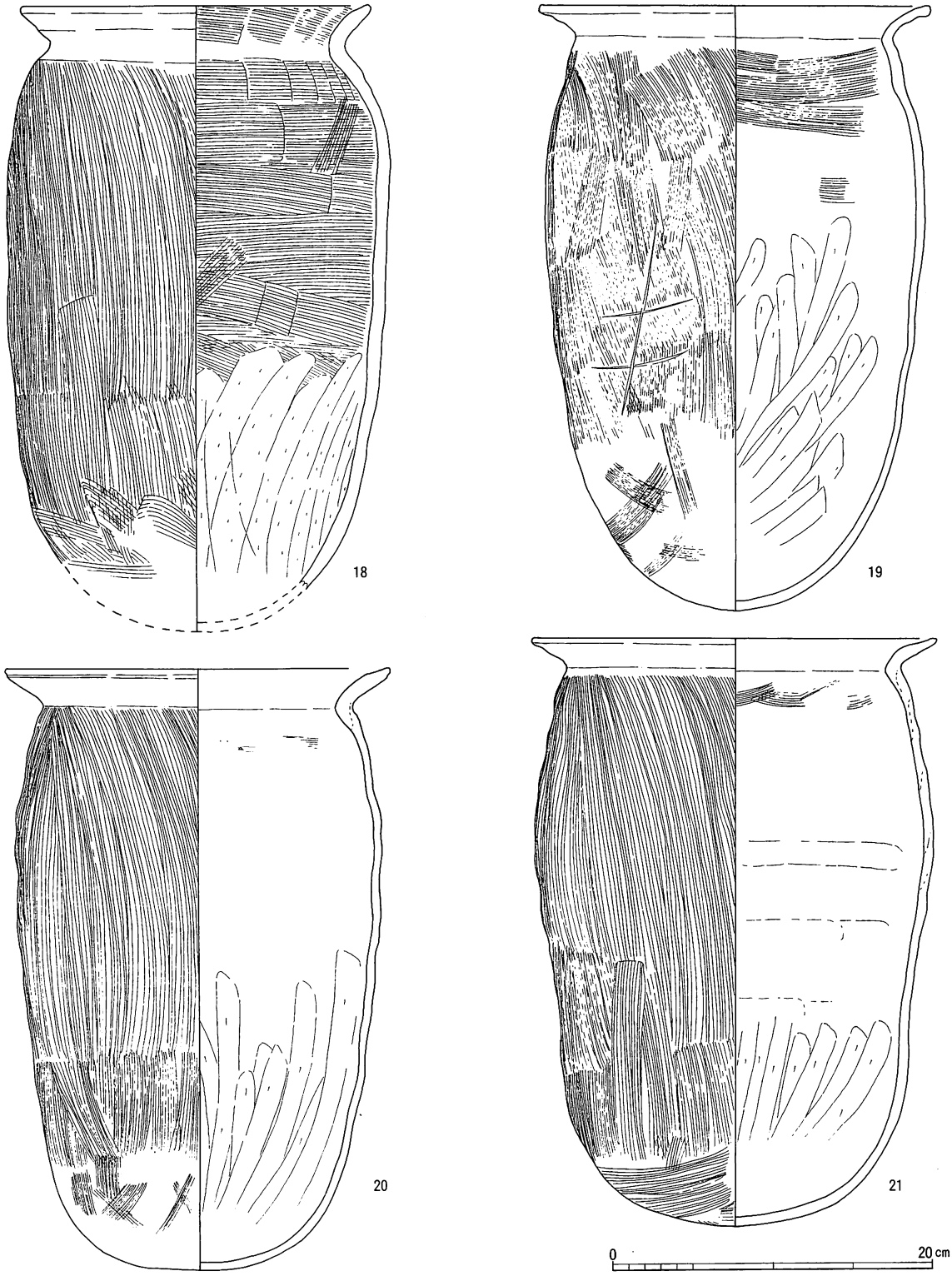


第４図　第 127 次調査　遺物実測図（1）　ＳＫ 8134

は第Ⅱ期でも、古い時期に該当し、第２段階と考えられる。

SD8161　土師器杯Ａ（30・31）は、（30）が口径14.1cm、器高3.4cm、（31）は口径13.5cm、器高2.8cmで、ともに口縁部と底部の境が丸みをもち、器壁は薄く、口縁端部の外反が強い。外面調整は、ヨコナデ調整のｅ手法である。

SD8151　土師器杯Ａ（32）は、口径14.5cm、器高2.8cmで、径高指数19.3と小さくなり、扁平な器形を示す。外面調整はヨコナデ調整のｅ手法である。SD8151・SD8161の土器は、



第５図　第127次調査　遺物実測図（2）　ＳＫ8134

器壁も薄くなり、第３段階のものと考えられる。

（３）斎宮第Ⅲ期

SK8136　土師器杯Ａ(33)は、口径15.6cm、器高3.1cmで、器壁は比較的厚く、外面に指圧痕。

SD8159　土師器小皿（35）、灰釉陶器椀（34）などが出土し、時期幅が大きい。灰釉椀は、底部のみで高台径6.5cmで、高台は断面長方形で角張るものである。小皿（35）は、推定口径9.3cm、器高2.1cmで、丸みをもつ小皿で、鎌倉時代まで降る。

SD7470　土師器杯Ｇ、小皿、ロクロ土師器、山茶椀が出土している。ロクロ土師器椀（36）は、推定口径15.8cm、器高6.7cmで、口縁部が大きく内弯して開き、端部がわずかに外反する。口縁部の丸みは少ない。底部外面に糸切痕を残す。

土師器杯Ｇ(37)は、口径12.5cm、器高3.9cmで、粗製椀の範疇に入るものであるが、口径も小さくなり、底部は丸みの強い形態を示す。

ロクロ土師器小皿(38・39)は、口径9.3～9.9cm、器高2.1～2.3cmで、口縁部はほぼ直線的に開き、底部は擬高台を意識した平底となる。底部外面に糸切痕を残す。

（40）は、非ロクロ製で底部をナデ調整する。

山茶椀（41～43）及び鉢（44）は、高台部分のみの出土である。高台は、断面逆台形で、丁寧なつくりである。藤澤編年の第Ⅰ段階第２型式から第Ⅱ段階第３型式のもので斎宮第Ⅲ期第3段階以降と考えられる。

SK7711　ロクロ土師器、緑釉陶器段皿が出土。ロクロ土師器（46～48）は、擬高台の（46）と高い高台をもつ（47・48）があり、ともに小型の皿である。緑釉陶器段皿（45）は、口径14.0cm、器高2.7cmで、緩く内弯して開く皿部に低い高台が貼り付けられる。皿は輪花となり４箇所に指オサエで小さな輪花を付ける。皿部内面には、重ね焼きのトチン痕が4箇所のこる。高台は、低く、内面は二段にケズリだされる。淡黄緑釉がかけられる。この製品は、黒笹90号窯式のもので斎宮第Ⅱ期第３段階に属する。

SD5256　ロクロ土師器、灰釉陶器椀、山茶椀等が出土。ロクロ土師器台付小皿（49）は、推定口径8.6cm、器高2.8cmで、高い高台がつく。

灰釉陶器椀（50）は、推定口径14.9cm、器高6.1cmで、緩く内弯する体部は、口縁端部が外反する。高台は高く、断面長方形で外方に踏ん張る。灰釉は、漬掛する。この製品は、折戸53号窯式のもので、斎宮第Ⅱ期第４段階まで遡るものである。

山茶椀（51）は、体部下半から高台部分の出土であり、高台は断面逆台形を示す。

（４）鎌倉時代

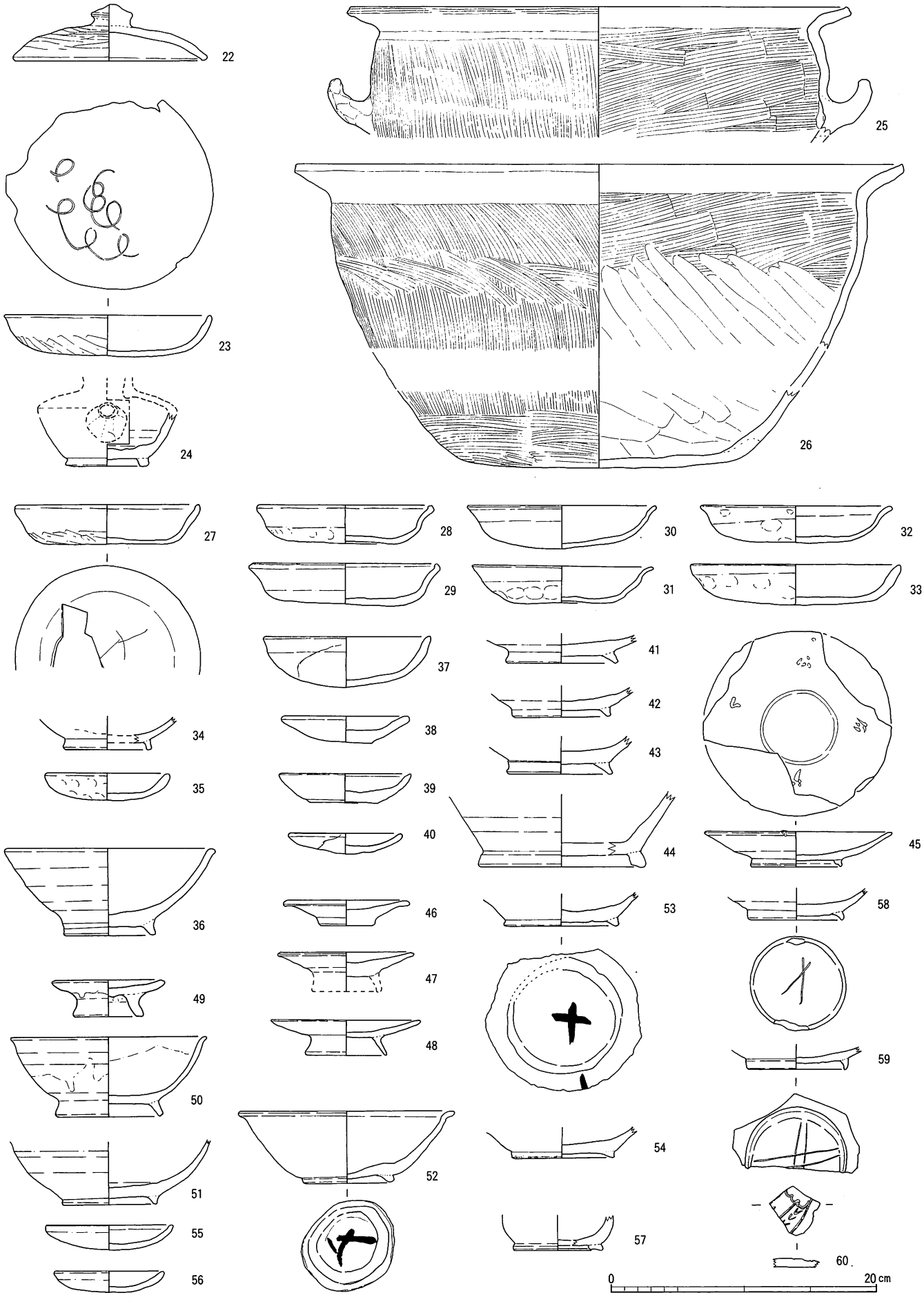
SK8164　山茶椀(52)が出土。(52)は、口径16.0cm、器高5.4cmで、緩く内弯して開く口縁部は端部で強く外反する。底部は、平面形が歪である。断面方形の高台が貼り付けられる。底部外面に「𠂉」の墨書が認められる。

SE7710　山茶椀が出土。(53)は、高台径8.7cmで、断面逆台形の高台が貼り付けられ、外面に「十」の墨書がある。(54)は、高台径7.8cmで、低い高台は、断面逆台形を示し、籾殻圧痕が認められる。

SD8147　土師器小皿(55)は、口径9.5cm、器高2.0cmで口縁部と底部が境をもたず、全体に丸い形状を示す。

SK8181　土師器小皿（56）は、口径8.3cm、器高1.6cmで形態は、前者と同じである。

（５）特殊遺物



第６図　第 127 次調査　遺物実測図（3）

SK8173：22，SD8129：23，24，SD8149：25，SD8126：26，SD8156：27，SD：5260：28，SK8163：，29，
SK8161：30，31，SD8151：32，SK8136：33，SD8159：34，35，SD7470：36～44，SK7711：45～48
SD5256：49～51，SK8164：52，SE7710：53，54，SD8147：55，SD8181：56，包含層：57～60

須恵器線刻文　(60)は、須恵器平瓶の体部外面に、ヘラ状工具により波文、羽状文、直線区画文を刻む。

緑釉陶器唾壺　(57)は、高台と底部のみの破片であり。高台は、径6.6cmで、端部内面が緩く内弯する。底部は丸みをもつ。淡緑釉が外面にかかる。

ヘラ記号　底部外面にヘラ記号をもつ灰釉陶器（58・59）である。（駒田　利治）

4　結　語

第127次調査は、古代の官道である伊勢道の敷設状況、方格地割との関係及び周辺遺構との関係を明らかにするため設定した調査であった。

調査の結果、西北西から東南東の方向に延びる奈良時代後期から平安時代末期の溝数条が確認され、平安時代後期及び鎌倉時代にはこの溝に直交する北北東から南南西方向の溝が敷設されたことが判明し、平安時代後期を境にこの区画の土地利用が大きく変化したことがうかがえる。

伊勢道の変遷　最も早く敷設された溝は、SD8130・SD8157と第78次調査区から続くSD5266であり、調査区内における溝底中心での方向には微妙な差異が認められるが、第78次調査でのＥ16°ＳとSD8130での測定値Ｅ15°Ｓは近似し、同一の溝と捉えることができる。第78次調査区の東端の溝底中心点と第132次調査区西端の溝底中心点での測定値によれば、溝方向は、Ｅ17°26′Ｓの数値が得られる。溝の埋没時期は、SD8130とＳＫ8134の重複関係から、SK8134がSD8130埋没直後に設けられた土坑と考えられることから斎宮第Ⅰ期第４段階以前の奈良時代の第３四半期頃と推定される。また、出土遺物がきわめて少ないため時期が確定できないが、SD8132とSD8133・SD8145も溝芯々の距離が約９ｍで平行し、埋土の状況から斎宮第Ⅰ期の奈良時代に遡る可能性が考えられる。

SD8130等は、史跡西部で確認されているSD0170に繋がると推定される溝であり、伊勢道の南側溝を構成する溝であるが、北側溝として断定できる溝は特定できない。

この溝は、方格地割内の第132次調査区以東では、第12-2次調査、第111-3次調査(SD7478)、第28次調査（SD1395)、第83次調査（SD5857)、第98次調査（SD6802)、第88次調査（SD6252)、第92次調査（SD2404)、第106-5次調査（SD6602）で確認されており、第28次調査区以東ではこの溝の北側に約９ｍの間隔をおいて平行する溝が確認され、この両側溝に挟まれた空間を同時代の遺構が認められないことも証左として道路遺構としている。方格地割内におけるこれらの溝は、方格地割が造営された奈良時代後期にあたる斎宮第Ⅰ期第４段階では消失している。その後、地割内においては、この方向を採用する溝は確認されず、方格地割の基準軸であるＮ４°Ｗに振った方位を基準として、南北東西方向に縦走する溝が大半を占める。

しかしながら、第127次調査区が位置するこの区画では、この後も西北西から東南東の方向に敷設された溝が認められる。

平安時代前半の斎宮第Ⅱ期では、埋没時期を第１段階或いは第２段階と断定できる溝はなく、第３段階に埋没したと考えられる溝に南から西調査区のSD8129、東調査区でSD5260とその延長とみられるSD8151・SD8144、第78次調査で平安時代前期としたSD5254とその延長部分及びその南に隣接するSD8149・SD8165とその延長と考えられ

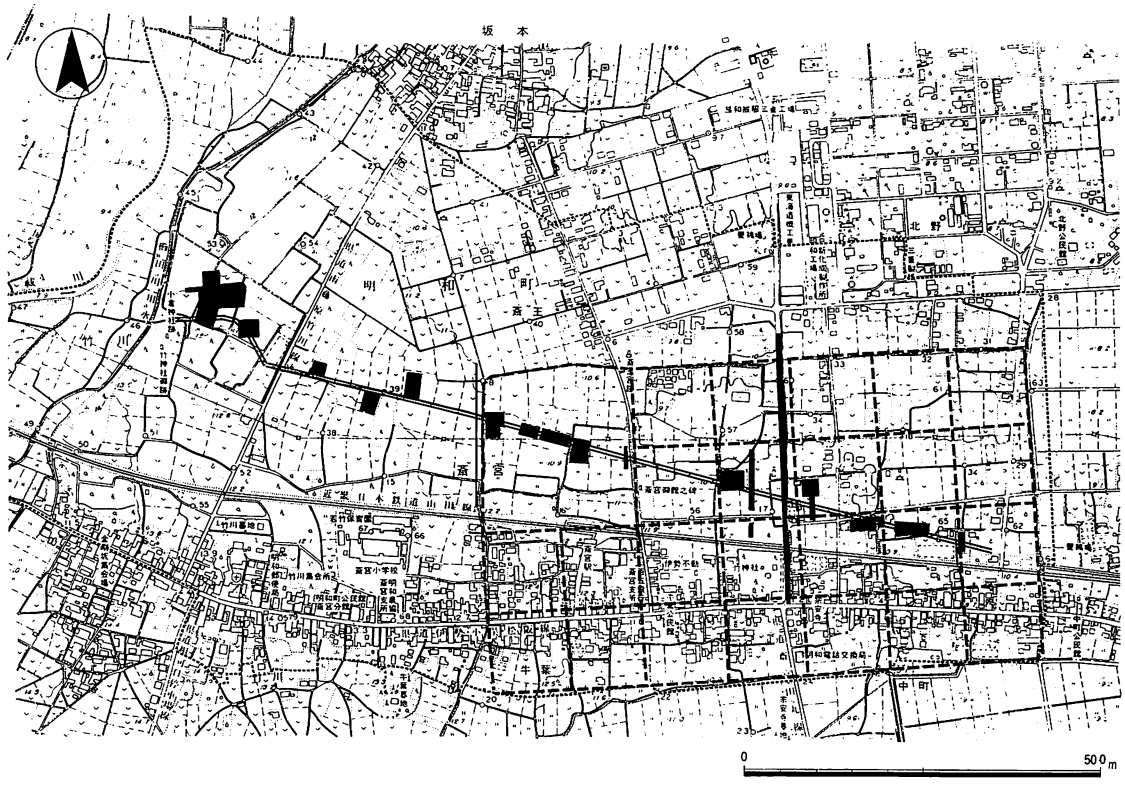
る西調査区の北西部のSD8126が認められる。当該時期の溝は、東調査区で多く検出されており、第78次調査区からの延長として捉えられるが、近代の瓦粘土採掘坑による攪乱にも分断され、溝方向は特定し難いが、概ねＥ15°ＳからＥ20°Ｓ方向をとる。

また、斎宮第Ⅱ期第4段階の平安時代中期の溝は、西調査区のSD8141、東調査区のSD8166の２条が、長さ10m未満で確認されるにとどまっている。

斎宮第Ⅲ期の平安時代後期になると、従来の方向を踏襲した溝が認められるのとその後半には、これらの溝に直交する方向をもつ溝が出現してくる。前者には、西調査区のSD7470、SD8128があり、東調査区の第78次調査区のSD5256とその延長部分、第78次調査区内で途絶えているSD5262に繋がる溝とも捉えられる。SD7470―SD5256、SD8128―SD5262は、それぞれに、弯曲したり、微妙な溝方向の違いが認められ厳密性を欠くが、ともに約Ｅ19°Ｓの方向をもち、両溝は約5mの間隔を保っており、SD7470―SD5256が第２段階、SD8128―SD5262が第３段階と埋没時期にわずかな時間差をもつが、同時存在していた可能性も残されており、この時期にいたっても道路が機能していたと考えられる。

この後、これまで踏襲されてきた西北西から東南東方向の溝に変わり、これに直交する溝が出現する。SD7712は、SD7470の埋没直後と判断され、第2段階には機能的転換が図られたとみられる。同じ方向の溝には、東調査区のSD8147、SD8152がある。溝の形状は大きく弯曲しており区画溝としての機能には疑問がもたれる。

鎌倉時代には、東調査区で前代の方向を受けて南北方向の溝SD8168～8170が確認されており、SD8168とSD8169は溝芯々間約2.4mの小径の両側溝と考えられ、この直ぐ東側に盛土を伴った農道があり、同様な機能をもっていたものと判断される。この時期には、井戸SE7710も確認されており、斎宮第Ⅲ期第2段階の掘立柱建物SB7715との存



第７図　斎宮跡史跡内の伊勢道調査地点（1:10,000）

在から、平安時代後期以降は、小規模な集落形態をなしていたと考えられる。

以上のように溝遺構が多い当調査区の変遷を辿ってみたが、斎宮第Ⅰ期第３段階にあたる奈良時代中期後半に官道としての伊勢道が後の方格地割東部まで直線道路として敷設され、方格地割の成立をみる斎宮第Ⅰ期第4段階にあたる奈良時代後期に一度消失した道路・溝は平安時代前期の斎宮第Ⅱ期第３段階を中心に、明確にし難い点も残されているが、前代の位置と方向を踏襲して、道路としての機能を保有しており、それは斎宮第Ⅲ期第２段階の平安時代後期まで継続される。そして、この時期以降、溝の方向が大きく変換されることにみられるようにこれまでの道路としての機能も変化したものと想われる。

従って、当該区画では遺構の埋没状況から断続と捉えられるが、道路として機能を永く保持しており、方格地割北西隅部における方格地割との関係に疑問点が残る。これまでの調査、特に第113次調査、第116次調査の結果から、当該地区の区画施設は他の区画とは異なり、４区画分が1区画として大きく区画されており、区画外周施設は緩く蛇行する溝で区画されており、その区画された施設の時期は斎宮第Ⅲ期第１段階を遡りえないとの見解を得ている。

一方、この区画の北部分の地形的にやや低地に位置する第78次調査、第82次調査結果では、斎宮第Ⅱ期第２段階の掘立柱建物ＳＢ5271は、上記の溝方向に棟方向をあわせるが、第Ⅱ期第３段階以降は、方格地割内の建物方向と同じ傾向を示し、正方位或いは北から２～３°東に棟方向を振る。第82次調査でも、第Ⅰ期の建物は、棟方向を溝群の方向にあわせるが、第Ⅱ期の段階になると第78次調査結果とほぼ同様な傾向を示している。このことは、第Ⅰ期第４段階で方格地割の成立をみるまでは、伊勢道に規制された土地利用を示していたが、方格地割成立以降は、明確な外周区画施設をもたない当区画においても、建物は明らかに地割の規制を受けていたと考えられる。しかし、一方で第Ⅱ期、第Ⅲ期を通じて西北西から東南東方向の溝は存在し、道路も機能していたと考えられ、区画割りと当区画の機能については課題はのこる。

（西村美幸　駒田利治）

Ⅲ　第129次調査

（６ＡＥＵ）

１　はじめに

経　過　第129次調査は、御館区画西端で実施した。調査地の北端と南端に東西15m、南北４mの調査区を２ヶ所設定し、さらに両者をつなぐ東西２m、南北23mの調査区を設定した。調査面積は166㎡である。現況は雑種地である。

目　的　今回の調査地は方格地割の南北道路の東側溝が想定される場所であり、その状況を把握するために実施した。周辺では約30m北で第121-3次調査が実施されているが、近代の瓦粘土採掘のため、遺構面が攪乱され、遺構は確認されていない。

現　況　現況の表土の厚さは0.2mで、褐灰色土（耕作土）である。表土以下は攪乱土坑の埋土である。

第８図　第 129 次調査　調査区位置図（1：2,000）

2　遺　構

北調査区は近代の瓦粘土採掘のため、全面にわたり攪乱されており、遺構は確認できなかった。調査区の北側の幅１ｍの部分のみを掘り下げ、表土の上面から1.4mで灰白色粘土に達した。表土上面から0.3mの深さでごく一部に幅0.2m前後の灰白色粘土がみられることから、本来の遺構面はこの高さであったと想定される。

南調査区は第１層は褐灰色土（耕作土）の厚さが0.2m前後で、すぐに遺構検出面となる。遺構検出面は灰白色粘土である。遺構は検出されず、西端に粘土採掘のための攪乱土坑がみられた。調査区の南東の畑地より約0.8m前後低く、本来の遺構面が削平された可能性がある。

中央調査区は、南調査区で確認された灰白色粘土の状況を確認するために設定したもので、その結果、南調査区との交点から0.4mまでは灰白色粘土が残っていたが、それより北はすべて攪乱土坑が北調査区まで続く。

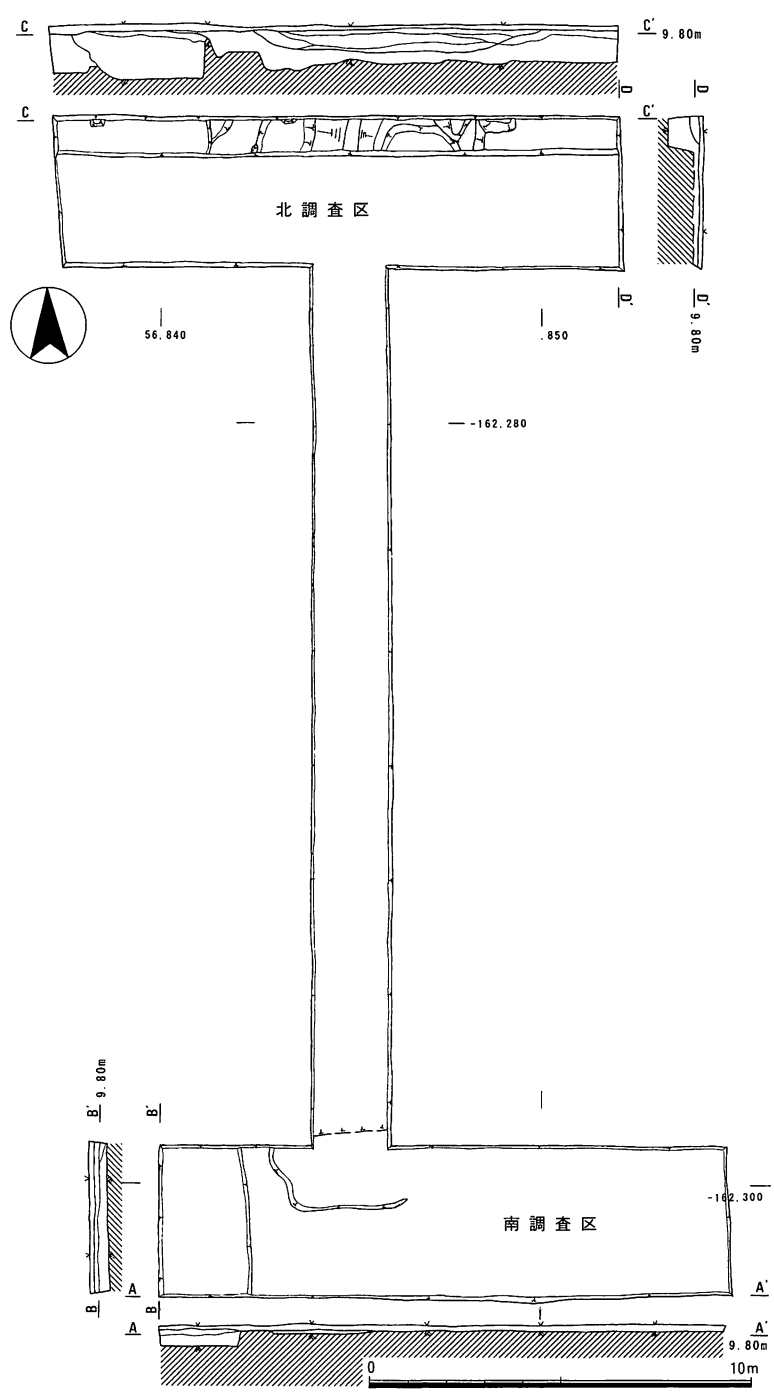
3　遺　物

今回の調査で出土した遺物は少なく、整理箱で４箱分である。そのほとんどが攪乱土坑埋土の遺物で、奈良時代後期から平安時代後期の土師器杯・甕、須恵器杯・甕、灰釉陶器椀などの他、近世の土師器皿・焙烙もある。

4　まとめ

今回の調査地は大半が近代の瓦粘土採掘のため遺構面が攪乱され、遺構は確認されなかった。遺物から当該区画が奈良時代後期には機能していたことが裏付けられる。

（上村　安生）



第９図　第129次調査　遺構実測図（1：200）

第３表　遺物観察表（第127次調査）

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
1	SD8134	土師器 杯　A	口径(15.2) 器高　3.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、底部内面ナデ	緻密	良好	内；明赤褐　5YR5/6 外；〃　〃	口縁部 25%		R8
2	SD8134	土師器 杯　G	口径　13.7 器高　3.8	ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内；橙　7.5YR8/4 外；〃　〃	75%		R2
3	SD8134	土師器 杯　G	口径　13.6 器高　3.6	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ	やや粗	良好	内；灰白　10YR8/2～ 浅黄橙　10YR8/3 外；〃　〃	25%	内面激しく摩耗底部継ぎ足し	R14
4	SD8134	土師器 杯　G	口径(13.5) 器高　3.5	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内；にぶい橙　7.5YR7/4 外；〃　〃	60%		R10
5	SD8134	土師器 杯　G	口径　13.5 器高　4.4	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内；浅黄橙　10YR8/4 外；〃　〃	80%		R3
6	SD8134	土師器 皿　A	口径(15.8) 器高　2.5	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良好	内；橙　5YR7/8 外；〃　〃	口縁部 25%		R11
7	SD8134	土師器 皿　A	口径　16.4 器高　2.0	口縁部ヨコナデ、体部外面オサエ後ナデ、底部外面ヘラケズリ、ヘラミガキ、内面螺旋3条	密	良好	内；橙　5YR6/8 外；〃　〃	口縁部 50% 底部完存	内面に螺旋３条	R1
8	SD8134	土師器 鍋　A	口径　18.4 器高　8.5	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部外面ヘラケズリ、内面ヘラケズリ	密 微細な砂粒多量	やや軟	内；浅黄橙　10YR8/4 外；〃　〃	60%	ハケメ６本/cm 器表面激しく摩耗	R9
9	SD8134	土師器 甕　A	口径　15.2 器高　11.3	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部外面調整ハケ、内面上半ヨコハケ、内面下半ヘラケズリ、底部内面オサエ後ナデ	密	良好	内；浅黄橙　10YR8/4 外；〃　〃	66%	外面ハケメ 10本/cm 内面ハケメ　6本/cm 外面体部薄く剥離、内面に粘土紐の継ぎ目	R16
10	SD8134	土師器 甕　A	口径　16.8 器高　14.6	口縁部ヨコナデ、体部外面上半タテハケ、体部外面下半ヨコハケ、底部外面調整ハケ、頸部内面ナデ、体部内面上半ヨコハケ、体部内面下半～底部ヘラケズリ	密１㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙　7.5YR8/6 外；〃　〃内；	口縁部 完存底部 75%	ハケメ７本/cm	R18
11	SD8134	土師器 甕　A	口径　18.0 胴部最大径 18.6 残高　15.7	口縁部ヨコナデ、体部外面体部タテハケ、体部内面体部上半ヨコハケ、体部内面体部下半ヘラケズリ	１㎜弱砂粒多量	やや軟	灰白　2.5Y8/2 外；〃　〃	70%	ハケメ14本/cm	R19
12	SD8134	土師器 甕　A	口径　16.7 器高　15.4	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、頸部内面頸部ヨコハケ、体部内面体部ヘラケズリ、底部内面底部オサエ後ナデ	密	良好	内；にぶい橙　7.5YR6/4 外；〃　〃	50%	外面体部上半ハケメ８本/1.5cm、外面体部下半ハケメ10本/cm	R15
13	SD8134	土師器 甕　A	口径　17.1 器高(15.0)	口縁部ヨコナデ、体部外面体部タテハケ、頸部内面頸部ヨコハケ、体部内面体部ヘラケズリ	密	良好	内；浅黄橙　10YR8/3 外；〃　〃	70%	外面体部上半ハケメ 6本/cm 外面体部下半ハケメ 9本/cm 外面の一部に二次焼成？	R12
14	SD8134	土師器 甕　A	口径　16.5 残高　12.5	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、体部内面体部上半横方向の板ナデ、体部内面体部下半ヘラケズリ	密１㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙　10YR8/4 外；〃　〃	75%	ハケメ８本/cm 外面にヘラ記号「×」 内面に粘土紐の継ぎ目	R17
15	SD8134	土師器 甕　C	口径　25.5 器高　38.5	口縁部ヨコナデ、体部外面体部タテハケ、底部外面底部調整ハケ、内面上半ヨコハケ、内面下半ヘラケズリ	密１㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙　10YR8/3 外；〃　〃	95%	外面上半ハケメ 10本/cm 外面下半ハケメ ６本/cm 外面底部調整ハケ６本/cm	R22
16	SD8134	土師器 甕　C	口径 24.5 残高　36.1	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ、ヘラミガキ	密	良好	内；黒褐　7.5YR4/2 にぶい黄橙　10YR6/4 外；にぶい黄橙 10YR6/4 灰黄褐　10YR4/2	70%		R21
17	SD8134	土師器 甕　C	口径　25.0 残高　28.8	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、体部内面上半タテハケ、体部内面下半ヘラミガキ	密	良好	内；にぶい黄橙 10YR6/3 外；〃　10YR7/3	70%	内面ハケメ激しく摩耗	R23
18	SD8134	土師器 甕　C	口径　22.0 胴部最大径 23.9 残高　37.1	外面口縁ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部外面不定方向のハケ、内面口縁～体部上半ヨコハケ、体部内面下半ヘラケズリ	微細な砂粒多量	良好	内；黄褐　2.5Y5/3 外；〃　〃	70%	外面体部ハケメ 13本/2.5cm 内面ハケメ 20～21本/３cm 外面下半の一部に使用痕かとも思われる不明瞭な黒色物付着	R24

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
19	SD8134	土師器 甕C	口径(24.0) 器高 38.5	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部外面調整ハケ、内面上半ヨコハケ、内面下半ヘラミガキ	密	良好	内；にぶい黄橙 10YR7/4 外；灰黄褐 10YR5/2	60%	外面にヘラ記号「半」 外面に煤付着	R25
20	SD8134	土師器 甕C	口径 24.0 器高 38.3	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、底部外面ナデ、体部内面上半ヨコハケ、体部内面下半～底部ヘラミガキ	密	良好	内；にぶい黄橙 10YR7/4 外；〃 〃	80%	内面ハケメ激しく摩耗	R26
21	SD8134	土師器 甕C	口径 25.2 器高 37.4	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部外面調整ハケ、頸部内面ヨコハケ、内面体部ヘラケズリ、コビオサエエ	密	良好	内；にぶい黄橙 10YR7/2 灰黄褐 10YR5/2 外；にぶい黄橙 7.5YR6/4～7.5YR7/4	80%	外面底部剥離	R20
22	SK8173	土師器 蓋	口径 14.4 器高 4.2	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ後ナデ、荒いヘラミガキ、内面ナデ、ツマミ貼付	密	良好	内；橙 5YR6/8 外；〃 〃	60%	表面凹凸	R44
23	SD8129	土師器 杯A	口径 15.6 器高 3.2	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ後螺旋暗文	緻密	良好	内；明赤褐 2.5YR5/8 外；〃 〃	70%	内面に螺旋暗文	R46
24	SD8129	須恵器 甕	高台径 6.3	体部外面ロクロナデ、底部外面ヘラ切後ナデ、内面ロクロナデ、高台貼付	1㎜以下の微細な砂粒多量	良好	内；褐灰 10YR4/1 外；暗灰 N3/	高台径		R48
25	SD8149	土師器 鍋B	口径 37.8	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ後ナデ、内面ヨコハケ	密 1㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙 7.5YR8/4 外；〃 〃	25%	ハケメ7本/2cm	R42
26	SD8126	土師器 鍋A	口径 45.7 器高(23.0)	口縁部ヨコナデ、体部外面斜のハケ～タテハケ～ヨコハケ、底部外面ハケ調整、内面上半ヨコハケ、内面下半斜めヘラケズリ、底部内面ヘラケズリ	密 1㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙 10YR8/4 外；〃 〃	口縁部25% 底部完存	体部外面下半～底部に煤付着	R43
27	SD8156	土師器 杯A	口径 13.8 器高 3.0	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良好	内；橙 5YR7/8～5YR6/8 外；〃 〃	70%	底部外面にヘラ記号	R13
28	SD5260	土師器 杯A	口径 13.8 器高 2.9	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内；橙 7.5YR6/6 外；〃 〃	90%		R68
29	SK8163	土師器 杯A	口径 13.9 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ	密1㎜砂粒少量	良好	内；橙 7.5YR7/6 外；〃 〃	75%		R58
30	SK8161	土師器 杯A	口径 14.1 器高 3.4	口縁部内面ヨコナデ、外面オサエ後ナデ	密	良好	内；淡橙 5YR8/4 外；〃 〃	ほぼ完形		R57
31	SK8161	土師器 杯A	口径 13.5 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内；浅黄橙 10YR8/4 外；〃 〃	完形		R56
32	SD8151	土師器 杯A	口径 14.5 器高 2.8	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	やや粗1㎜褐色粒混	良好	内；浅黄橙 10YR8/4 外；〃 〃	ほぼ完形	ゆがみ大 底部外面に掌痕残る	R35
33	SK8136	土師器 杯A	口径 15.6 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	微細な砂粒多量	やや軟	内；浅黄橙 10YR8/4 外；灰白 2.5Y8/2	60%		R47
34	SD8159	灰釉陶器 椀	高台径 6.5	内外面ロクロナデ、体部外面灰釉漬け掛け、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良好	内；灰白 2.5Y7/1 外；〃 〃 釉；〃 2.5Y8/1	10%以下 高台径25%	外面に灰釉漬掛、内面に自然釉付着 重ね焼痕	R69
35	SD8159	土師器 小皿	口径 (9.3) 器高 2.1	外面オサエ後ナデ、内面ナデ	微細な砂粒多量	やや軟	内；灰白 2.5Y8/2 外；〃 〃	40%		R63
36	SD7470	ロクロ 土師器 椀	口径(15.8) 器高 6.7 高台高 6.8	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良好	内；灰白 10YR8/2 外；〃 〃	60%		R45
37	SD7470	土師器 杯G	口径 12.5 器高 3.9	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密1㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙 10YR8/4 外；〃 〃	40%	外面に粘土紐の継ぎ目	R27
38	SD7470	ロクロ 土師器 小皿	口径 9.3 器高 2.1	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り	密	良好	内；浅黄橙 10YR8/3 外；〃 〃	50%		R29
39	SD7470	ロクロ 土師器 小皿	口径 9.9 器高 2.3	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り	密	良好	内；にぶい黄橙 10YR7/3 外；褐灰 10YR5/1	25%		R30
40	SD7470	土師器 小皿	口径 8.5 器高 .7	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ	密1㎜砂粒多量	良好	内；淡黄 2.5Y8/3 外；〃 〃	80%	外面に粘土紐の継ぎ目	R28
41	SD7470	陶器 山茶椀	高台径 8.5	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良好	内；灰白 2.5Y7/1 外；〃 〃	底部のみ		R79

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
42	SD7470	陶器 山茶椀	高台径 7.5	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良好	内；灰白 2.5Y7/1 外；〃 〃	底部のみ		R77
43	SD7470	陶器 山茶椀	高台径 8.0	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	微細な砂粒多密	良好	内；暗灰黄 2.5Y5/2 外；〃 〃	底部のみ		R78
44	SD7470	陶器 鉢	高台径12.3	外面ロクロケズリ、底部外面糸切り、内面ロクロナデ、高台貼付ナデ	密1㎜砂粒	良好	内；灰白 7.5Y7/1 外；〃 〃	25%		R31
45	SK7711	緑釉陶器 段皿	口径 14.0 器高 2.7	口縁部外面ロクロナデ、外面ロクロケズリ後ロクロナデ、内面施釉、高台貼付ナデ	密	良好	内；香櫨緑 外；〃	50%	内面全面に施釉内面に輪花推定4ヶ所	R5
46	SK7711	ロクロ土師器 小皿	口径 (9.1) 器高 1.9	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り	密1㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙 10YR8/3 外；〃 〃	25%		R60
47	SK7711	ロクロ土師器 小皿	口径 10.0	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り後ナデ、高台貼付ナデ	密1㎜砂粒少量	良好	内；浅黄橙 10YR8/4 外；〃 〃	33%		R61
48	SK7711	ロクロ土師器 小皿	口径(11.2) 器高 2.7 高台径 6.0	内外面ロクロナデ、底部外面ナデ、高台貼付ナデ	密	良好	内；浅黄橙 10YR8/3 外；〃 〃	20%		R62
49	SD5256	ロクロ土師器 小皿	口径 (8.6) 器高 2.8 高台径 5.5	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ、高台ヨコナデ	粗1㎜以下の砂粒	良好	内；灰白 10YR8/2～浅黄橙 10YR8/3 外；〃 〃	30%		R70
50	SD5256	灰釉陶器 椀	口径(14.9) 器高 6.1 高台径 7.8	内外面ロクロナデ、灰釉漬掛、底部外面糸切り後ナデ、高台貼付	密	良好	内；灰白 2.5Y7/1 外；〃 5Y7/1 釉；〃 5Y7/1	30%	内外面灰釉漬掛輪状の重ね焼き痕	R66
51	SD5256	陶器 山茶椀	高台径(7.2)	外面口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良好	内；灰白 10YR7/1 外；〃 〃 自然釉；灰オリーブ5Y6/2	40%	内面に自然釉がゴマメ状に付着	R67
52	SK8164	陶器 山茶椀	口径 16.0 器高 5.4 高台径 6.3	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り、墨書、高台貼付ナデ	密2～3㎜粒少量	良好	内；灰白 N7/ 外；〃 〃	完形	外面底部に墨書	R55
53	SE7710	陶器 山茶椀	高台径 8.7	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、体部外面と底部に墨書、高台貼付	砂粒多量	良好	内；灰白 5Y7/1 外；〃 〃	底部のみ	外面底部に墨書「＋」外面体部に墨痕	R75
54	SE7710	陶器 山茶椀	高台径 7.8	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	1㎜砂粒多量	良好	内；灰白 5Y7/1 外；褐灰 10YR6/1	底部のみ		R76
55	SD8147	土師器 小皿	口径 9.5 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエ、内面ナデ	2㎜以下砂粒	良好	内；浅黄橙 10YR8/3 外；にぶい黄橙 10YR7/3	ほぼ完形		R51
56	SK8181	土師器 小皿	口径 8.3 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	微細な砂粒多量	良好	内；にぶい黄橙7.5YR7/4 外；浅黄橙 10YR8/3	完形		R52
57	G23 包含層	緑釉陶器 唾壺	高台径6.6	体部外面回転ヘラケズリ、内面ヨコナデ、高台貼付	密	軟質	内； 外；	30%		R4
58	M16 包含層	灰釉陶器 椀	高台径7.0	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り後ヘラ線刻、高台貼付	密	良好	内；黄灰 2.5Y6/1 外；〃 〃 自然釉；灰オリーブ 7.5Y6/2	底部のみ	底部外面にヘラ線刻「×」内面体部に自然釉付着	R6
59	M17 遺構上面	灰釉陶器 椀	高台径(7.3)	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り後ヘラ記号、高台貼付	密1㎜砂粒	良好	内；灰白 10YR8/1 外；〃 10YR7/1	底部50%	底部外面にヘラ記号	R49
60	M17 包含層	須恵器 平瓶	口径 器高	内外面ロクロナデ、外面線刻	密	良好	内；灰白 5Y7/1 外；灰黄 2.5Y6/2	—	線刻面に自然釉	R7

第４表　斎宮跡発掘調査次数一覧表

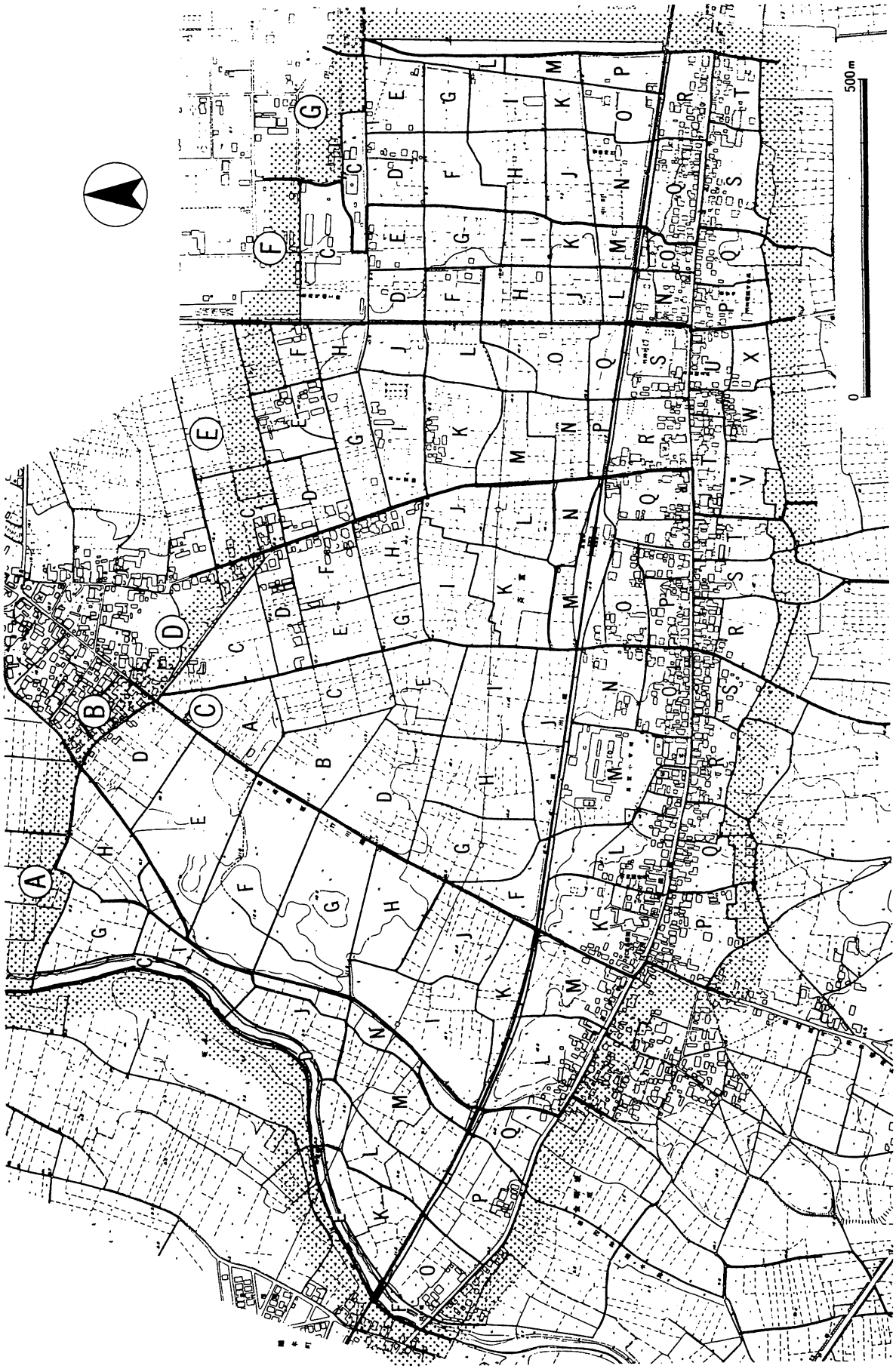
次数	年度	調査地区
1	S45	試掘
2	46	古里Ａ地区
3		〃Ｂ地区
4	47	〃Ｃ地区
5	48	〃Ｄ地区
6-1		Ａトレンチ
6-2		Ｂトレンチ
6-3		Ｃトレンチ
6-4		Ｄトレンチ
6-5		Ｅトレンチ
7	49	古里Ｅ地区
8-1		Ｆトレンチ
8-2		Ｇトレンチ
8-3		Ｈトレンチ
8-4		Ｉトレンチ
8-5		Ｊトレンチ
8-6		Ｋトレンチ
8-7		Ｌトレンチ
8-8		Ｍトレンチ
8-9		Ｎトレンチ
8-10		Ｏトレンチ
8-11		Ｐトレンチ
9-1	50	Ｑトレンチ
9-2		Ｒトレンチ
9-3		Ｓトレンチ
9-4		Ｔトレンチ
9-5		Ｕトレンチ
9-6		Ｖトレンチ
9-7		Ｗトレンチ
9-8		Ｘトレンチ
9-9		Ｙトレンチ
9-10		Ｚトレンチ
10		広域圏道路
11-1		西加座2661-1（山中）
11-2		〃　2681-1（山名）
11-3		東前沖2483-2（前田）
11-4		下　園2926-9（吉木）
12-1	51	２Ａトレンチ
12-2		２Ｂトレンチ
12-3		２Ｃトレンチ
12-4		２Ｄトレンチ
13-1		東加座2436-7（浜口）
13-2	51	〃　2436-4（中村）
13-3		古　里3283（村上）
13-4		楽　殿2916～2917（松井）
13-5		御　館2974-1（川本）
13-6		中垣内375-1（南）
13-7	51	東　裏328（小川）
13-8	51	西加座2771-1（細井）
13-9		〃　2773（細井）
13-10		東　裏362-1（児島）
13-11		西加座2681-1（浮田）
13-12		〃　2721-3,2724-2（森川）
13-13		東前沖2506-2（宮下）
14-1	52	２Ｅトレンチ
14-2		２Ｆトレンチ
14-3		２Ｇトレンチ
14-4		２Ｈトレンチ
14-5		２Ｉトレンチ
15		斎宮小学校
16-1		竹川町道Ａ
16-2		〃　Ｂ
16-3		〃　Ｃ
16-4		〃　Ｄ
16-5		〃　Ｅ
16-6		〃　Ｆ
17-1		竹神社社務所
17-2		竹神社防火用水
17-3		西加座2721-6（西沢）
17-4		楽　殿2894-1（中川）
17-5		〃2895-1（西口）
17-6		出在家3237-3（吉川）
17-7		〃　3237-1（里中）
17-8		楽　殿2894-1（西村）
17-9		東海造機
18	53	6AEL-E・I（下園）
19		6AEN-M（御館）
20		6AEO-I・J（柳原）
21-1		6AGN-B（鍛冶山、北山）
21-2		6AEI-D（西加座2711-2ほか、山路）
21-3		6AFD-D（西前沖2649-1、大西）
21-4		6AFH-F（西加座2678、2679-3、森下）
21-5		6AGD-K（東前沖、渡辺）
21-6		6ACA-T（古里3269-2、中西）
21-7		6AFE-F（東前沖2631-1、鈴木）
21-8		6AEG-A（楽殿2909-3、大西）
21-9		6AED-R（篠林3218-3、宇田）
22-1		6AGU
22-2		6AGU
22-3		6AGW
23	54	6AEL-B（下園）
24		6AGF-D（西加座）
25-1		6ADP-K（牛葉3029-1、三重土地ホーム）
25-2		6ACA-Y（古里3270、脇田）
25-3		6ADD-F（篠林3139-3、池田）
25-4		6AER-H（牛葉3014、牛葉公民館）

次数	年度	調査地区
25-5		6AGN-H（鍛冶山2392、丸山）
25-6		6AFH-A（西加座2675-5、谷口）
25-7		6AEK-V（下園2926-10、奥田）
25-8	54	6AFC-D（西前沖2064-5、山本）
25-9		6ACN-C（広頭3387-1、北出）
25-10		6AEV-A（鈴池339-1、永島）
25-11		6ACF-B（東裏364-1、沢）
25-12		6AEE-Y（楽殿2892-3、山本）
25-13		6AEJ-E（西加座2766-1、山内）
26-1		6AFR（中西）
26-2		6AEX～6ACQ（鈴池、木葉山、南裏）
26-3		6AEV・W・X（鈴池）
26-4		6ACR（木葉山、南裏）
27		6ACG-S・T（東裏）
28		6AEO-D（柳原）
29		6AFI、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ
30	55	6ABJ-M・X・W（中垣内）
31-1		6ADO-M（内山3038-13、岩見）
31-2		6ACP-I（南裏227-2、鈴木）
31-3		6ABD-A（古里588-4、北藪）
31-4		6ADQ-T（牛葉3018-2、百五銀行）
31-5		6ACC-G（塚山3338-3、水谷）
31-6		6ABO-X（古里576-1、池田）
31-7		6AGI-L（東加座2427-1、竹内）
31-8		6ACN-G（広頭3388-1･5･8･9、森）
31-9		6AGD-L（北野2487-1、中川）
31-10		6ADM-O（内山3043-3、斎宮駅）
31-11		6ADT-I（木葉山304-2、澄野）
31-12		6ADT-J（木葉山304-7、宇田）
32		6ACE-D･E･F（塚山）
33		6ADE-C･D他（篠林）
34		6ADE-F･G･H（西加座）
35		6APE他（西前沖）
36	56	6ABI-F（中垣内）
37-1		6AFC-M（西前沖2064、日本経木）
37-2		6ADQ-R（牛葉3021-2、野田）
37-3		6AFC-F（西前沖2604-6、神田）
37-4		6AFC-M（西前沖2604、日本経木）
37-5		6AFC-G（西前沖2064-7、中村）
37-6		6ABD-A（古里588-2、北藪）
37-7		6AEC-M（苅干2861-2、斎王公民館）
37-8		6ADR-P（木葉山128-8･13･14、富山）
37-9		6AGK-E（東加座2355-1、竹内）
37-10	56	6AED-O（楽殿3217-1、渡部）
37-11		6ADN-O（内山3043-3、斎宮駅）
37-12		6AFH-J（西加座2681-1･3･4、渋谷）
37-13		6AGK-F（西加座2385-3、2386-3、竹内）
38		6ACD-S（塚山）
39		6ABD-R･S･T（古里）
40		6AGH-L・M（東加座）
41		6AGJ-J他（斎宮地内）
42-1	57	6AEI-D・F（楽殿）
42-2	57	6AEK-A・B（楽殿）
43-1		6ADC-C（出在家3235-2、永田）
43-2		6ADT-B（木葉山308-1、山本）
43-3		6ACP-T（南裏241-1、辻）
43-4		6ADS-D（牛葉123-3、西山）
43-5		6ADE-D（篠林3220-3、澄野）
43-6		6AGE（東前沖、町道側溝）
43-7		6ABD-F（古里588-6、今西）
43-8		6ADQ-H（牛葉3025-2、大西）
44		6AFL-A・B（鍛冶山2759-1、他）
45		6AEG-P・Q（楽殿2904-2、他）
46		6AGN-C・D（鍛冶山2737-1、他）
47		6ADJ-D･G他（西加座･御館･宮ノ前他）
48-1	58	6AGM-M（広頭3385、斎宮小）
48-2		6ADP-Q（牛葉3033-1・2、吉田）
48-3		6ABL-M（中垣内434-6、西川）
48-4		6AGL-B（東前沖2480、倉田）
48-5		6AGD～6AFE（東前沖、町道側溝）
48-6		6AGC-A（西前沖3550-1、今西）
48-7		6ADT-H（木葉山307、森西）
48-8		6ACL-E･F･G（東裏334-15、他）
48-9		6AEV-J（鈴池341-1、乾）
48-10		6AGT（牛葉、町道側溝）
48-11		6ADP-E（鍛冶山2351-1･2352-1、榊原）
48-12		6AFC-H（西前沖2604-8・9、清水）
48-13		6ACM-O（東裏、斎宮小）
48-14		6AET（牛葉、町道側溝）
49		6ADI-D･U･V･W･X（上園3083、他）
50		6ACH-H（東裏294,297、山本）
51		6AFF-D（西加座2663-1･4,2664、森下）
52		6AGF-D（西加座2703、他）
53-1	59	6ACM-P（東裏284、体育館）
53-2		6ACA-M（古里3280-2、中西）
53-3		6ABE（古里573-2、永納）
53-4		6ACL-S（東裏271-1、田所）
53-5		6ACR（木葉山97-5、田中）
53-6		6AGO（鍛冶山、町道側溝）
53-7		6ADD-U（篠林3147-3、野呂）
53-8		6AGE-O（東前沖2470-2、上田）
53-9		6ACS-O（木葉山95-2、浅尾）
53-10		6ACA-R（古里3267-1、西川）
53-11		6ADR-W（木葉山131-7、西村）
53-12		6ABL-K（中垣内464-2、沢）
53-13		6ADQ-L（牛葉3022、辻）
53-14		6ACM-O（東裏287-3、体育館）
53-15		6AFK-C・D（西加座2721-1、鈴木）
54		6AFE-N（西前沖2630、他）
55		6AEN-P（柳原、御館2785-1、他）
56		6ACH-S（東裏289-1、他）
57		6AGF-H・I（東加座2441、他）
58-1	60	6AFK-C・D（西加座2721-1、鈴木）
58-2		6AFH-N（西加座2681-1、三村）

次数	年度	調査地区
58-3	60	6ACM-N（東裏3385-2、斎宮小）
58-4		6ABL-A（中垣内4731-1、小家）
58-5		6ADQ-Q（牛葉、町道側溝）
58-6		6ADR-V（木葉山131-3、西山）
58-7		6AGS-G（中西611、山路）
58-8		6ABM-A（中垣内430-3他、近鉄）
59		6ACJ-I（広頭3379-1、他）
60		6AGJ-B·D·G（東加座2450-1、他）
61		6AFF-H·I·D（西加座2663-1、他）
62		6AGI-J・K（東加座2425、他）
63		6AFG-M・N（西加座2659-1、他）
64-1	61	6ACO-H（牛葉3395-1、トーカイ）
64-2		6AGL-F（東加座2435-1、大和谷）
64-3		6ADD-A（篠林3136-1、山路）
64-4		6AGR-N（笛川2340、丸山）
64-5		6ACM-R·Q·P（東裏3385-2、斎宮小）
64-6		6ACK（東裏361-2、竹川自治会）
64-7		6AGI-G（東加座2435-2、大和谷）
64-8		6AGR-J（笛川2341-6、山下）
64-9		6ADQ-M（牛葉、町道側溝）
64-10		6ACF-A（東裏365-1、樋口）
64-11		6ACM-O（東裏3385-2、斎宮小）
64-12		6ADE-B（篠林3162-3、江崎）
65-1		6ACC-M（塚山3331-1）
65-2		6AEG-S（楽殿2908-2、他）
65-3		6AEI-L・M（楽殿2917-4、他）
66		6AGG-C（東加座2437-1、他）
67		6ABF（古里523、他）
68		6ABF（古里502、他）
69		6AGM-E～H（東加座2373、他）
70-1	62	6ACC-X（塚山3325-1、江崎）
70-2		6AEE-W（楽殿2875-2、岡田）
70-3		6ADR-I（木葉山129-5、大西）
70-4		6ACN-A·B·E·L（広頭3389-8、林）
70-5		6AEW-A（鈴池333-1、八田）
70-6		6ABL-S（中垣内430-6、奥山）
70-7		6AEE-T（楽殿577、浅尾）
70-8		6AEU·6AEX-A（牛葉、鈴池、三重県）
70-9		6AEP-C・D（御館、榊原、近鉄）
70-10		6AFD-B・D（西前沖2649-4、大西）
70-11		6AGO-H（鍛冶山2363-2、川合）
70-12		6ADD-F・G（篠林3158、長谷川）
70-13		6AEC-N・G（苅干、佐藤）
70-14		6ABL-R（中垣内459、北岡）
70-15		6AFD-A（西前沖2644-1、山本）
70-16		6ACB-A他（町道塚山線拡幅）
71		6ABE（古里501、他）
72-1		6ABE（古里500、他）
72-2		6ABF（古里523、他）
72-3		6ABF（古里551-2、他）
72-4		6ABF（古里528-1、他）
73		6AFF-B·C·E·G（西加座2663-5、他）

次数	年度	調査地区
74-1	62	6ABF（古里523、他）
74-2		6ABF（古里522、他）
74-3		6ABE・F（古里524、他）
74-4		6ABE（古里548-1、他）
74-5		6ABE（古里543、他）
75		6AGF-C（西加座2702、他）
76-1	63	6ADB-A～D（町道塚山線拡幅）
76-2		6ADE-F・G（篠林3158、長谷川）
76-3		6ABE（古里554、明和町）
76-4		6ACK（東裏354-13、山際）
76-5		6AEE-W（楽殿577、岡田）
76-6		6ACB-A（塚山3276-1、今西）
76-7		6ACM-M（広頭3385-2、斎宮小）
76-8		6AFM-G（鍛冶山2736-3、近鉄）
76-9		6ACQ（南裏144-1、田所）
76-10		6ABD-U（古里579、池田建設）
76-11		6ABE（古里554、明和町）
76-12		6AEE（楽殿、町道下水管）
76-13		6ADD-K（篠林3143、中西）
76-14		6AEE-S（楽殿2878-3、山路）
76-15		6ABF～6ABH（中垣内、県道拡幅）
76-16		6AEK-B（下園2936-2、明和町）
76-17		6AEV-A（鈴池339-5、永島）
77		6AGJ-D（東加座2453、他）
78		6ADL（宮ノ前3054、他）
79		6AGG-A・B（東加座2440、他）
80		6AFG-F～I（西加座2696、他）
81-1	H1	6AEC～F（町道塚山線拡幅）
81-2		6ABJ、6ABK（古里、県道拡幅）
81-3		6ADS-M（木葉山137、中川）
81-4		6AED-L（楽殿2881-2、山本）
81-5		6AFQ-C（中西597-2、木戸口）
81-6		6ADD-F（篠林313、池田）
81-7		6ABL-U（中垣内430-7、川本）
81-8		6ABJ（古里、明和町）
81-9		6ACF（中垣内、三重県）
81-10		6ADR-V（木葉山297、明和町）
81-11		6ACM-N（広頭3385-2、明和町）
81-12		6AED-A（篠林3225、中川）
81-13		6ACB（塚山3276-19他、明和町）
81-14		6AED-F（楽殿2844-2、澄野）
81-15		6AED-U（楽殿2885-2、西山）
81-16		6AG（北野3655-1他）
82-1		6ADI-F～J（上園3095他）
82-2		6ADI-K・L（上園3100他）
83		6AFJ-C～F（西加座2770-3他）
84-1		6AFJ-G（西加座2764-3）
84-2		6AFH-G・H（西加座2679-1他）
85-1	2	6ABD～6ACD（古里、三重県）
85-2		6ACA-P（古里3279、松本）
85-3		6ACJ-B・D（東裏、明和町）
85-4		6ABE（竹川573-1、永納）

次数	年度	調査地区
85-5	2	6AED-U（楽殿2885-2、西山）
85-6		6AFH-B（西加座、明和町）
85-7		6ACB-C（塚山3276-3他、加藤）
85-8		6ABI-N（中垣内427-1、小林）
86		6AFH-F･G･H（西加座2679-1、他）
87		6ACE-N（塚山3356、他）
88		6AGN-C・D（鍛冶山2411-1、他）
89-1	3	6ADM-O（内山3043-5、近鉄斎宮駅）
89-2		6AGI-M（東加座2432-2他、北村）
89-3		6ADM-N･O（内山3060-4、近鉄斎宮駅）
90		6AFH-A・B（西加座2680、他）
91		6ABH-F（中垣内393、他）
92		6AGN-A（鍛冶山2734-3）
93		6ADN（内山3045-12、他）
94		6AEM（御館2942）
95	4	6ADN（内山3046-17、他）
96-1		6AGM（東加座2374、丸山）
96-2		6ADO（内山3068-3他、明和町）
96-3		6ACA-D（古里3260、清水）
96-4		6AFN（中西2749-1、本山）
96-5		6ADR-T（木葉山28-3、加藤）
96-6		6ADD-D（篠林3138-1、藤井）
97		6AEM（中垣内482、他）
98		6AFM-C・E（鍛冶山2475、他）
99	5	6ADN（内山3046-11、他）
100		6ABI-T（中垣内423）
101		6ADG（篠林3194）
102-1		6ADS（木葉山119-5、澄野）
102-2		6AED-J（楽殿2882-5、杉本）
102-3		6AAQ（花園663-1、中川）
102-4		6ACF-A（東裏365-1、樋口）
102-5		6ABJ-D（中垣内493-6、川口）
102-6		6AG（鍛冶山地内、明和町）
102-7		6ACG-E（東裏318-1、川本）
102-8		6AE（楽殿地内、明和町）
103		6AEQ-A（柳原2779-3）
104		6AGT（笛川1048-1、他）
105	6	6AFN（鍛冶山2758-1、他）
106-1		6AEW-J（鈴池338-1、森西）
106-2		6AEE-W（楽殿2891-3、向井）
106-3		6AFL他（鍛冶山地内、明和町）
106-4		6AEC-L（苅干2861、坂本）
106-5		6AGO（鍛冶山2362、青山）
106-6		6ACC-B（塚山3340-4、田畑）
107		6ABI-O（中垣内414-1、他）
108		6AEQ-C（柳原2779-2、他）
109	7	6AFL-D（鍛冶山2763-1、他）
110-1		6ACM-J（東裏262-3、斎宮土地改良区）
110-2		6AGR-O（笛川2345-3、竹内）
111-1		6ADM（内山地内）
111-2		6ADK（上園地内）
111-3		6ADL他（宮ノ前地内）
112	7	6ACB-B（塚山3276-15、他）
113-1	8	6ACI（広頭地内）
113-2		6ACI（広頭地内）
114		6AEQ-E・F（柳原地内）
115-1		6ADK･DL（上園・宮ノ前地内）
115-2	8	6ADK（上園地内）
116-1		6ADG（篠林地内、他）
116=2		6ADM-A（内山）
116-3		6ADI-Q（宮ノ前地内）
116-4		6ADI-M･N（上園地内）
116-5		6ADI（上園・篠林地内）
116-6		6ADH（篠林地内）
117-1		6AEF（楽殿2984-4）
117-2		6ADF-A・B（篠林3155-1、他）
117-3		6ABJ（中垣内地内）
117-4		6ADP（牛葉地内）
117-5		6AFC-M（北野3553-1、他）
117-6		6ACM-B（東裏266-6）
118	9	6ADN（内山地内）
119		6AFM-E･G（鍛冶山西地内）
120		6AFI-C･E、6AFG-R（西加座地内）
121		6AJB他（宮ノ前地区、他）
122		6AFN（鍛冶山地内）
123-1		6AFQ-A（中西地内）
123=2		6AFN他（中西・笹川地内）
123-3		6ADP-F～H･L（牛葉地内）
123-4		6ADQ-A～C（牛葉地内）
123-5		6AEE（刈干地内）
123-6		6ACC-I（塚山地内）
124	10	6AFM-B・E・G（鍛冶山地内）
125-1		6ACC-I（塚山3337-1他）
125-2		6AES他（斎宮・竹川地内）
125-3		6ADD-R（篠林地内）
125-4		6ACN（広頭）
126		6AGU（中西）
127	11	6ADK-H,I（上園3113、他）
128-1		6ADP（鍛冶山2737-1）
128-2		6ACA-W（古里3270-4）
128-3		6AEW-A･C･M（鈴池地内、明和町）
128-4		6ACK（東裏地内、明和町）
128-5		6AEP（御館2975-1他、明和町）
128-6		6ADN（内山地内、明和町）
128-7		6AAQ（花園地内、明和町）
128-8		6AEC-M（苅干地内、斎王公民館）
129		6AEU（御館2969-1他）



第10図　斎宮跡地区表示

第11図　斎宮跡方格地割区画名称

発掘調査報告抄録

ふりがな	しせきさいくうあと　　へいせい１１ねんどはっくつちょうさがいほう
書名	史跡斎宮跡　　平成11年度発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	駒田 利治・上村 安生・大川 勝宏・西村 美幸
編集機関	斎宮歴史博物館
所在地	〒515－0321三重県多気郡明和町竹川５０３番地　℡０５９６－５２－３８００
発行年月日	２００１年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
斎宮跡	多気郡(たきぐんめい)明和町斎宮(わちょうさいくう)他	24442	２１０	34 31 35 〜	136 36 16 〜	19990510		
第127次調査	斎宮字上園(さいくうあざかみぞの)			34 32 30	136 37 37	〜 19991026	1,330	計画調査
第129次調査	斎宮字御館(さいくうあざみたち)					〜 19990802 〜 19990820	166	〃

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡	宮殿				
第127次調査		奈良時代後期〜鎌倉時代	掘立柱建物、井戸 土坑、溝、道路	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器	奈良時代の古道
第129次調査				土師器、須恵器、灰釉陶器	近代の攪乱

図　　版

第１２７次調査区全景（上空から）

調査区全景（西から）

ＳＤ5254，8166，5256，5260（東から）

ＳＤ8128，8129，8130，8132（西から）

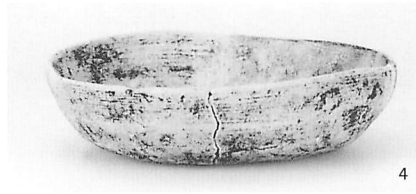
ＳＢ7715（西から）

ＳＫ8134　土器出土状況

調査区全景（南から）

北調査区全景（東から）

2

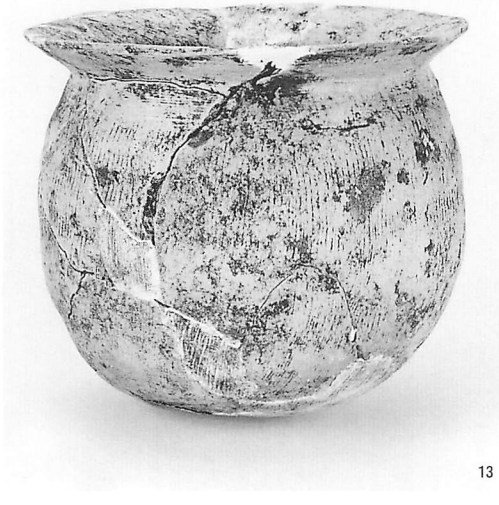

4

5

8

9

10


13

15

遺 物 写 真（１）

22

23

28

29

30

31

32

33

39

36

19

45

52

57

60

遺 物 写 真（２）

史 跡　斎 宮 跡

平 成 11 年 度

発 掘 調 査 概 報

平成１３年3月３１日

編集発行　斎 宮 歴 史 博 物 館
印　　刷　光出版印刷株式会社